

シン学校プロジェクト
一宮市立大和南小学校
基本計画

2026(令和8)年2月

一宮市

目 次

第1章 基本計画の策定にあたって

(1) 策定の経緯・目的	1
(2) 上位計画・関連計画の整理	2
(3) 基本計画策定における実施体制	3

第2章 大和南地区(大和南小・中学校区)の状況

(1) 大和南小学校の周辺状況	4
(2) 大和南地区における児童生徒の状況	10
(3) 大和南小学校における学校施設の現況	11

第3章 施設整備のコンセプト

(1) 施設整備のコンセプト	15
(2) 基本方針	16
(3) 統合の方針	23

第4章 基本計画

(1) 前提条件の確認	24
(2) 主な必要機能・諸室の基本的な考え方	30
(3) 施設整備計画の検討	34
(4) 大和南小中一貫校での活動イメージ	39
(5) 構造計画の基本的な考え方	40
(6) 設備の基本方針	41
(7) 概算事業費	43
(8) 事業スケジュール	44
(9) 効率的な施設・運営の配慮事項	45

参考資料

(1) ワークショップ開催概要	46
(2) ワークショップ開催スケジュール	46
(3) ワークショップ各回の開催状況	47
(4) ワークショップ実施に関するアンケート	57
(5) ワークショップのニュースレターの発行について	61
(6) ワークショップ参加者	70

第1章 基本計画の策定にあたって

(1) 策定の経緯・目的

一宮市(以下「市」という。)では、2023(令和5)年からシン学校プロジェクトを始動した。シン学校プロジェクトは、少子化が進み児童生徒数が減少する中で、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆さまからご意見をいただいて、一緒に考えていこうというものである。2024(令和6)年4月には、シン学校プロジェクトの第1期候補校の募集を開始し、市民・地域の皆さまからの提案を受け、「市内小学校の中でも校舎の健全度が著しく低いことや、2028(令和10)年にはすべての学年が1クラスになる予測」などの理由から、2024(令和6)年7月の総合教育会議において、大和南小学校を第1期前期の対象校に決定し、2024(令和6)年8月に公表した。

シン学校プロジェクトの応募書類には、「小学校と中学校の施設一体型校舎への改築」や「教育課程特例校制度を活用し、学区外からの児童の受け入れによる学校規模の適正化」と「大和南地域の核となる学校」などの提案がなされた。市では、現状把握として既存校舎の耐力度調査※を実施した。その結果、建て替えの必要が無いことを確認し、市民・地域の皆さまからの提案に基づき、既存校舎を活かした全面長寿命化改修の方針とした。

策定にあたり、大和町連区地域づくり協議会、学校運営協議会、PTA等保護者の皆さま、その他大和南小・中学校に関わる方に参加いただき、ワークショップやアンケートを複数回実施し、幅広い意見や助言を収集し、検討を重ねた。また、大和南小・中学校の児童、生徒及び教職員を対象としたアンケートでは、現在の学校に対する印象や、新しい学校に期待する点などの意見を集めた。こうして得られた多様な声に加え、教育従事者からの視点等、事業に関わる諸条件と詳細に照らし合わせ計画案の調整を行った。

この計画案をもとに地域説明会を開催し、市民・地域の皆さまに説明し、そこで得られた様々な意見も踏まえた最終調整を行った。

以上を踏まえ、2026(令和8)年1月26日開催の定例教育委員会において「シン学校プロジェクト 一宮市立大和南小学校基本計画」が承認されました。

本計画は、施設の規模や機能、配置等の整備に関する基本的な考え方について示すものであり、今後の基本設計・実施設計を行う際の指針となるものである。

※耐力度調査：学校施設における建物の構造耐力、健全度(経年による耐力・機能の低下)、立地条件による影響の3点の項目を総合的に調査するもの

(2) 上位計画・関連計画の整理

本計画の策定を進めるにあたり、指針となる上位計画・関連計画の整理を行い、概要を示す。

【シン学校プロジェクト関係図(計画根拠・位置づけ)】

第7次一宮市総合計画(2018(平成30)年度～2027(令和9)年度)

【5つのプラン】の内、Plan5：未来の人材を育てる

【Plan5】の内、施策25：学校教育施設を整備します

第7次一宮市総合計画 実施計画(2025(令和7)年度～2027(令和9)年度)

【Plan5 施策25】の内、P2501：事業名「シン学校プロジェクト」

老朽化した校舎を単に順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校について、市民・地域の方々の意見を取り入れ、計画的に改築等を進める。

一宮市デジタル田園都市構想総合戦略(2024(令和6)年度～2027(令和9)年度)

【5つの基本目標】の内、基本目標1.【希望】：「若い世代の希望をかなえ、充実した子育て環境と子どもが健やかに学べるまち」をつくる。

【基本目標1.【希望】】の内、⑤特色ある教育の実施

・老朽化した校舎の建て替えをはじめとする、新たな学校のあり方を検討していく「シン学校プロジェクト」を着実に進めます。

シン学校プロジェクト
基本方針
(2024(令和6)年3月)



整合

- 一宮市教育大綱(2021(令和3)年4月)
- 一宮市学校教育推進プラン
(2024(令和6)年度～2026(令和8)年度)
- 一宮市公共施設等総合管理計画
(2022(令和4)年3月改定)

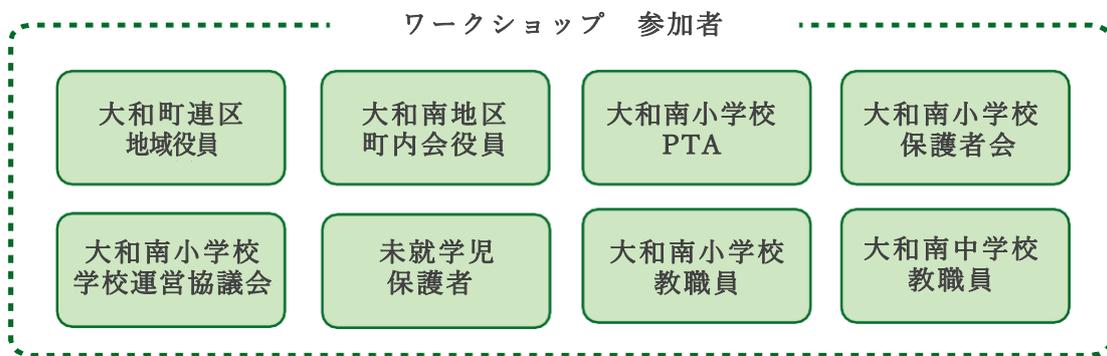
対象校基本計画
(2026(令和8)年1月)

(3) 基本計画策定における実施体制

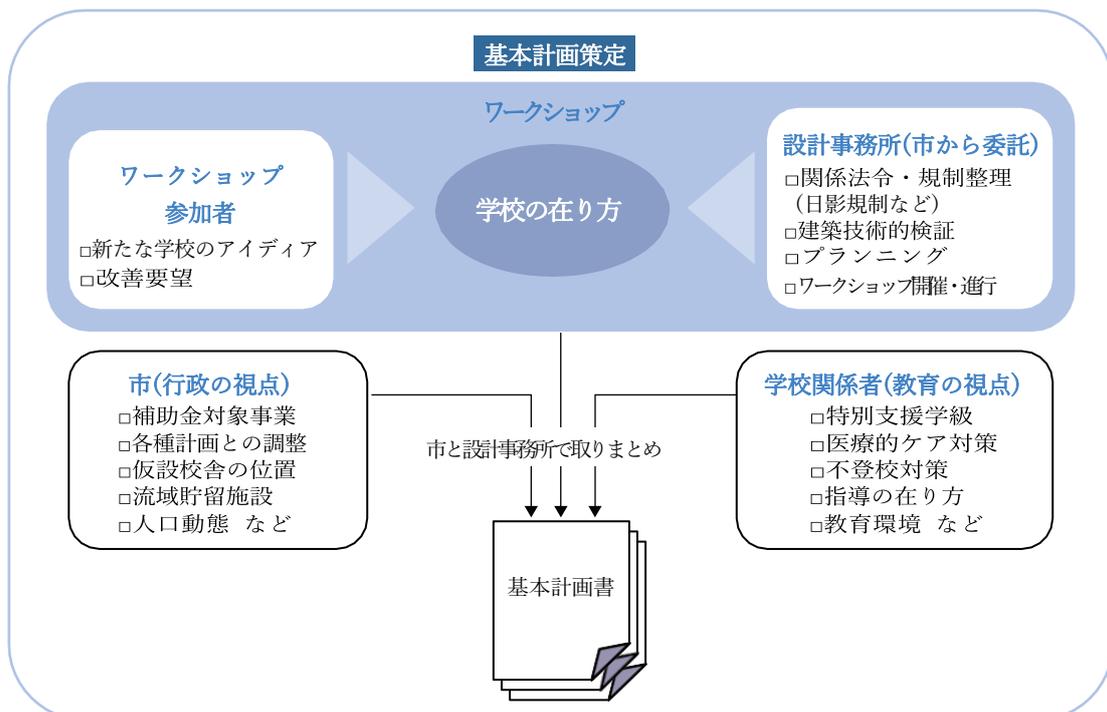
基本計画の策定にあたっては、できるだけ多くの人から意見や要望をヒアリングするため、地域の皆さまとともに、計5回にわたるワークショップを行った。

ワークショップでは、現状の大和南小学校や大和南中学校の利用状況などをヒアリングしつつ、先行する類似施設の事例を紹介しながら、学校と地域住民の交流の在り方などについて議論をした。そのほか、市から大和南小学校の児童及び教職員向けのアンケート結果、大和南中学校の生徒及び教職員向けのアンケート結果を参加者に紹介した。

ワークショップやアンケートで集まった意見や要望をもとに、市民・地域の皆さまと市が協働して学校の在り方を描き、行政の視点と教育の視点を反映した基本計画にするための検討を進めてきた。



〈 基本計画策定に向けた実施体制図 〉



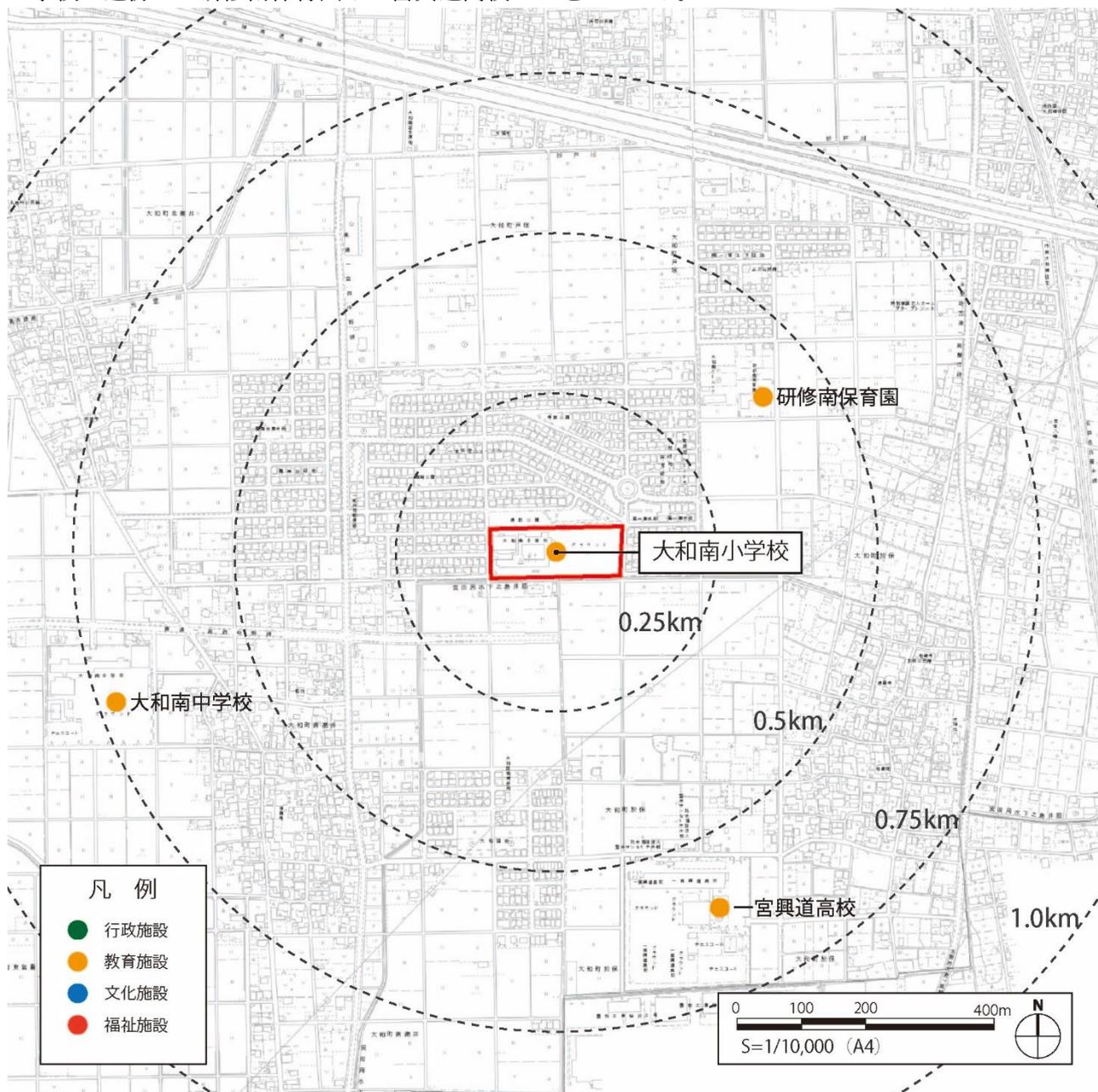
第2章 大和南地区(大和南小・中学校区)の状況

(1)大和南小学校の周辺状況

大和南小学校の位置と周辺状況について次のとおり整理する。

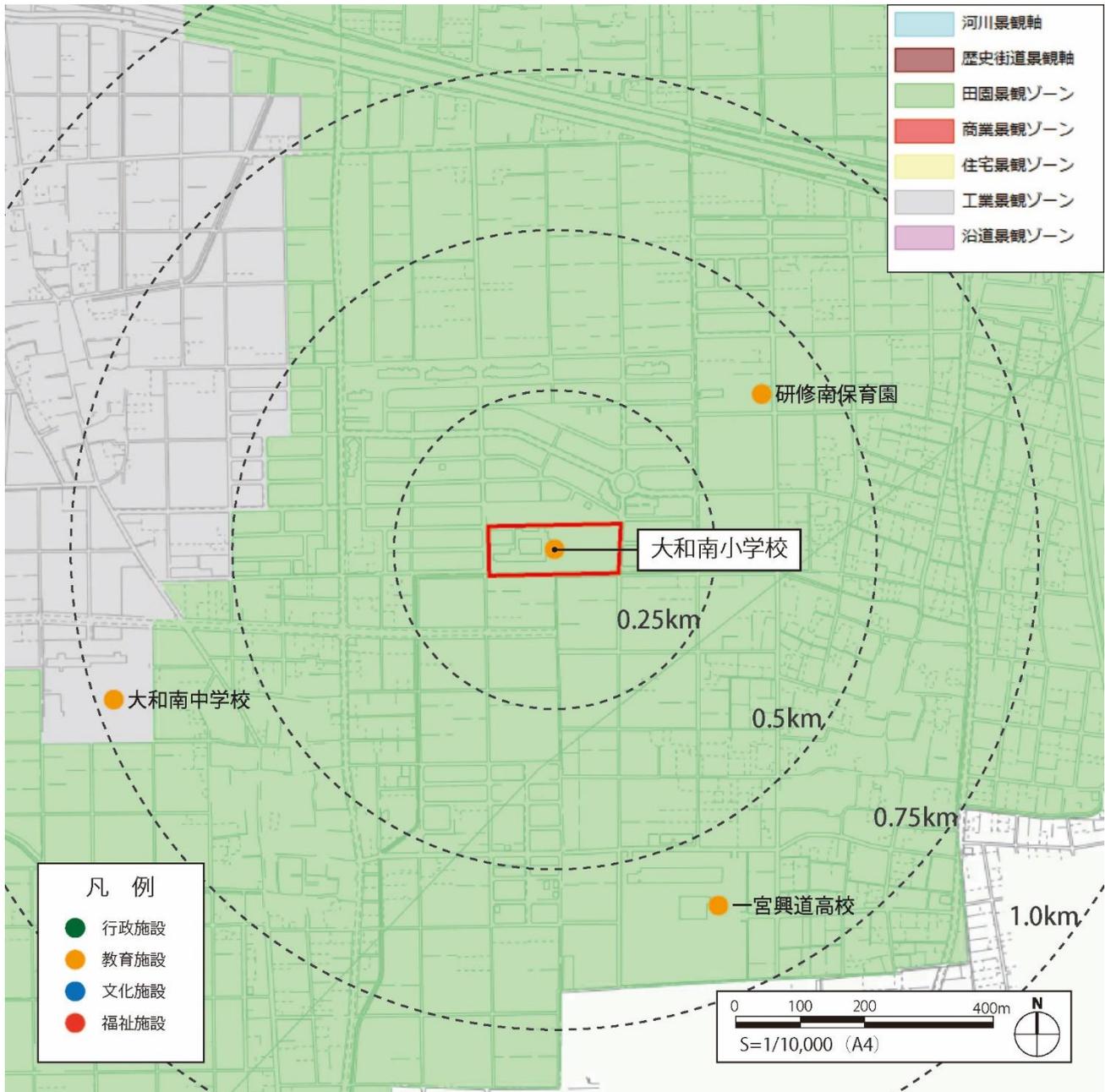
【付近見取り図・周辺施設分布図】

大和南小学校は、住宅地の中に位置し、大和南中学校とは750m程の距離にある。また、大和南小学校の近傍には研修南保育園や一宮興道高校が立地している。



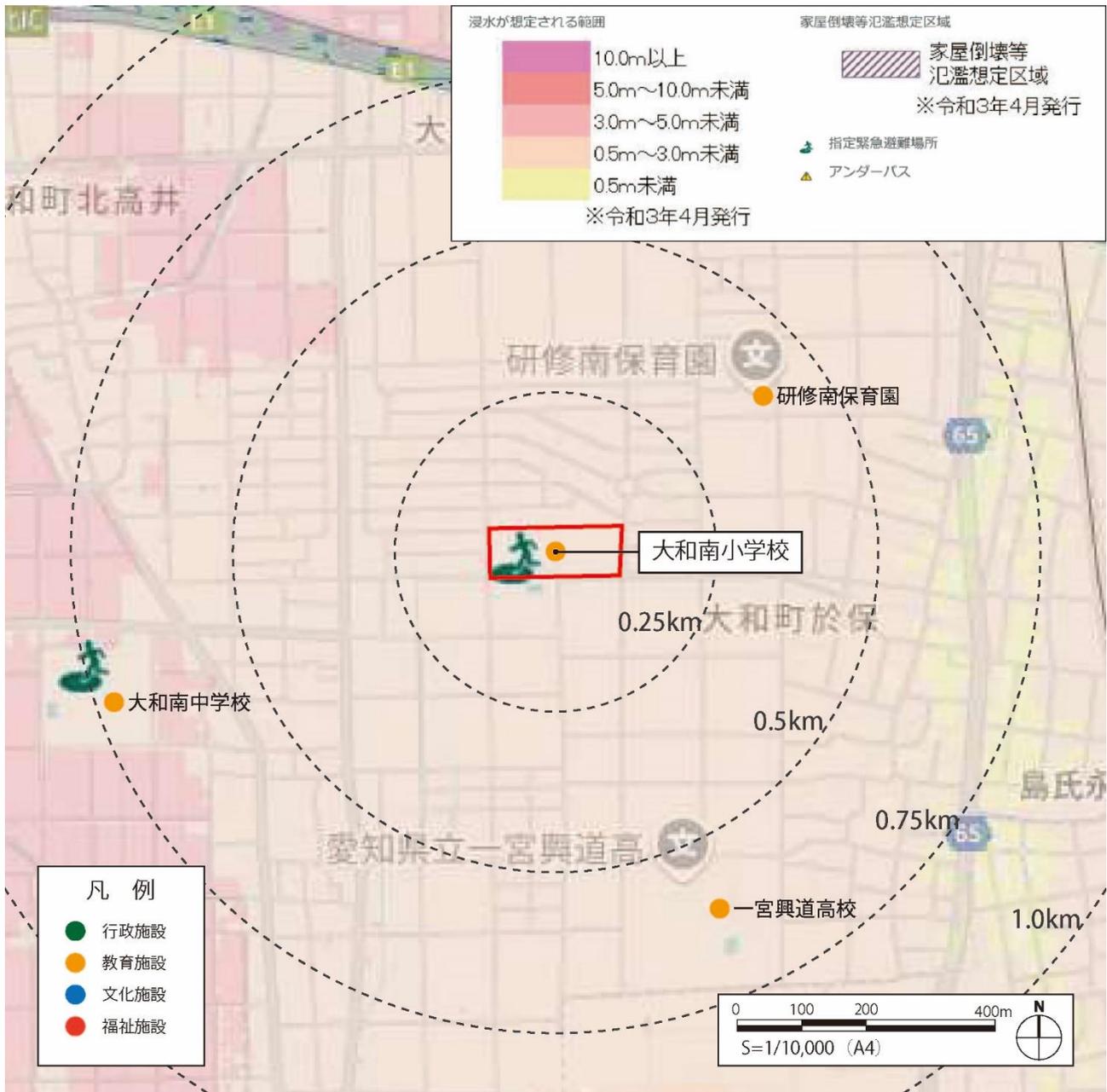
【景観計画区域(田園景観ゾーン)】

大和南小学校は景観計画区域の田園景観ゾーンに位置し、敷地の南側には田畑が広がっている。



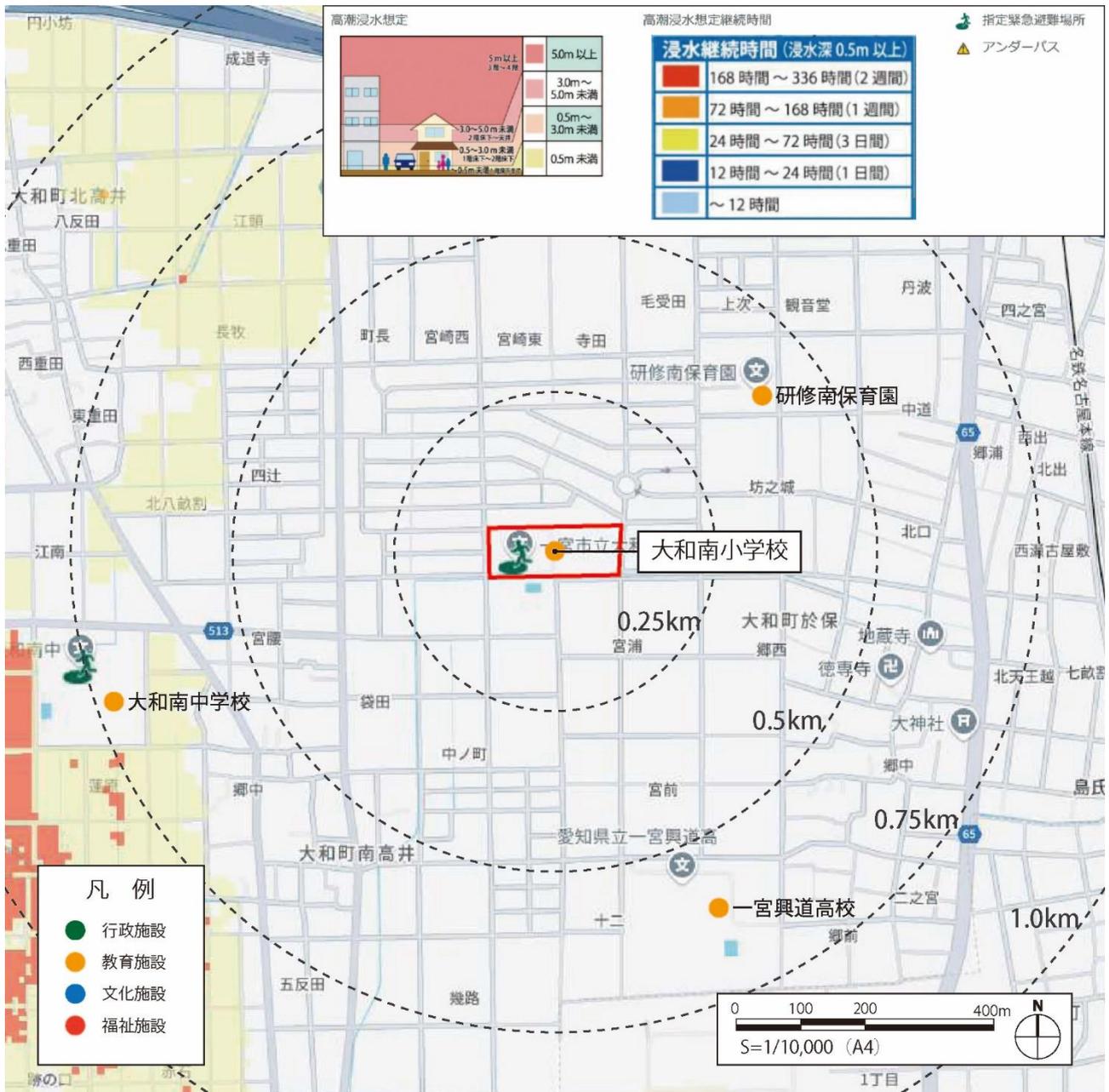
【洪水ハザードマップ(浸水が想定される範囲：0.5～3.0m未満)】

大和南小学校は浸水が想定される範囲0.5～3.0m未満の地域にある。また指定緊急避難場所に指定されており、周辺住民にとって重要な防災拠点である。



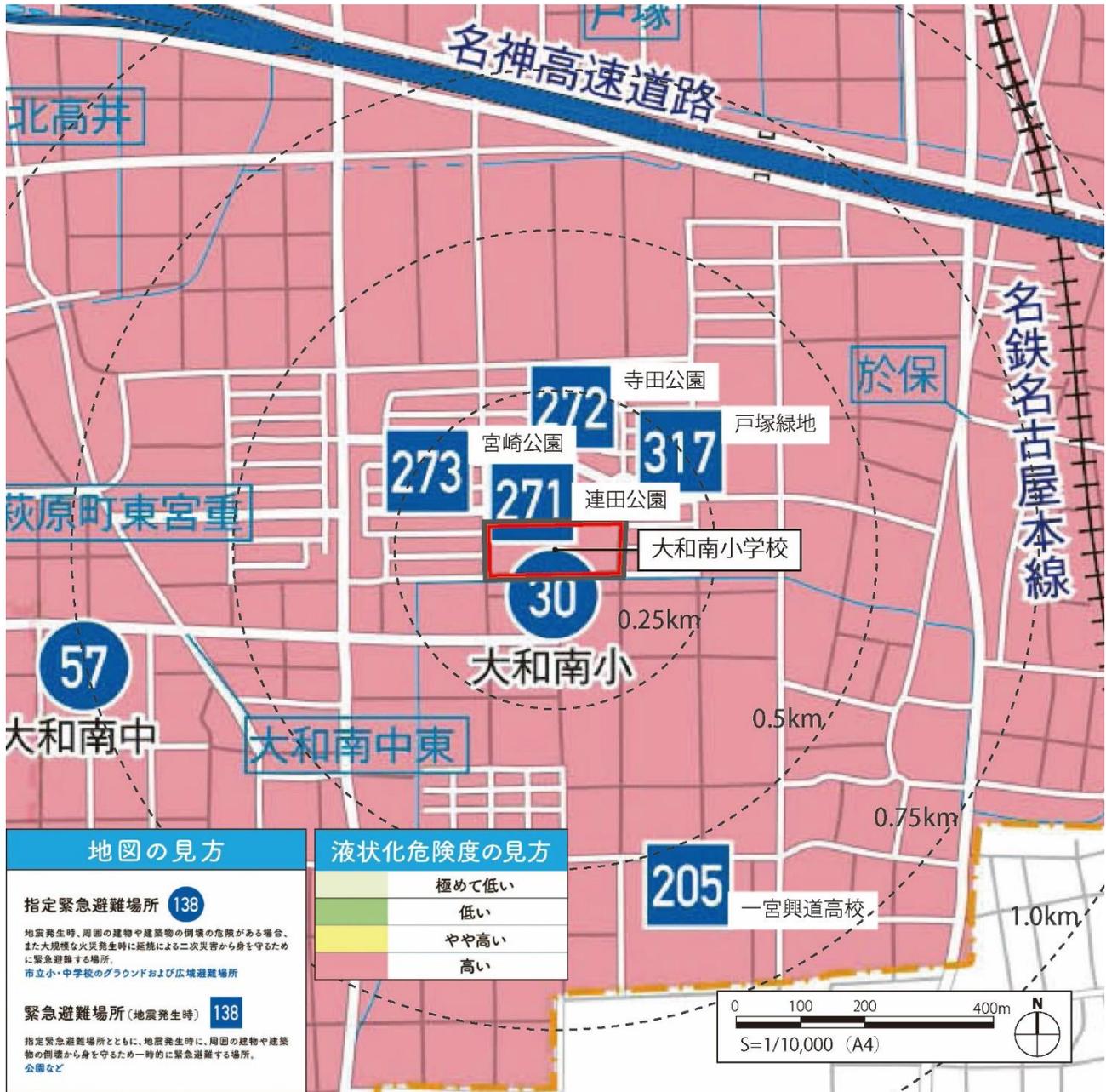
【高潮ハザードマップ】

大和南小学校は高潮の影響は受けない範囲に位置している。



【液状化危険度マップ】

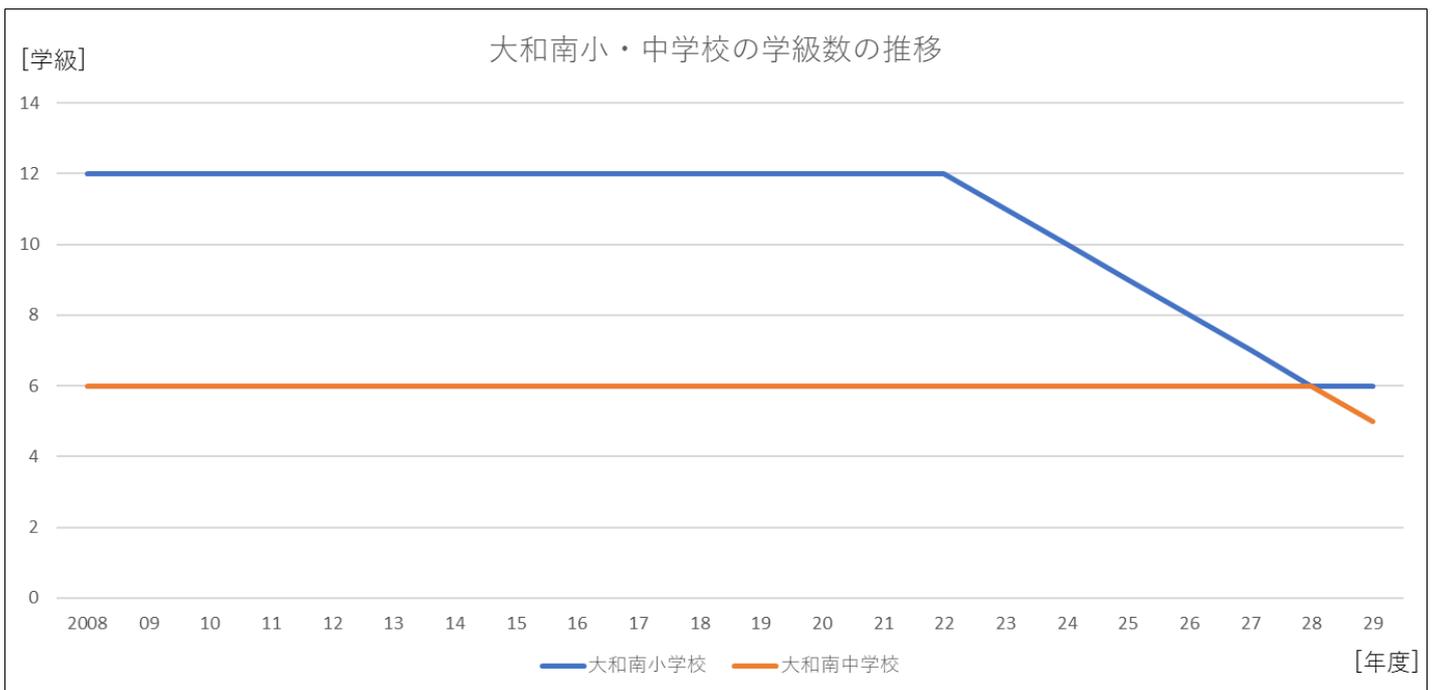
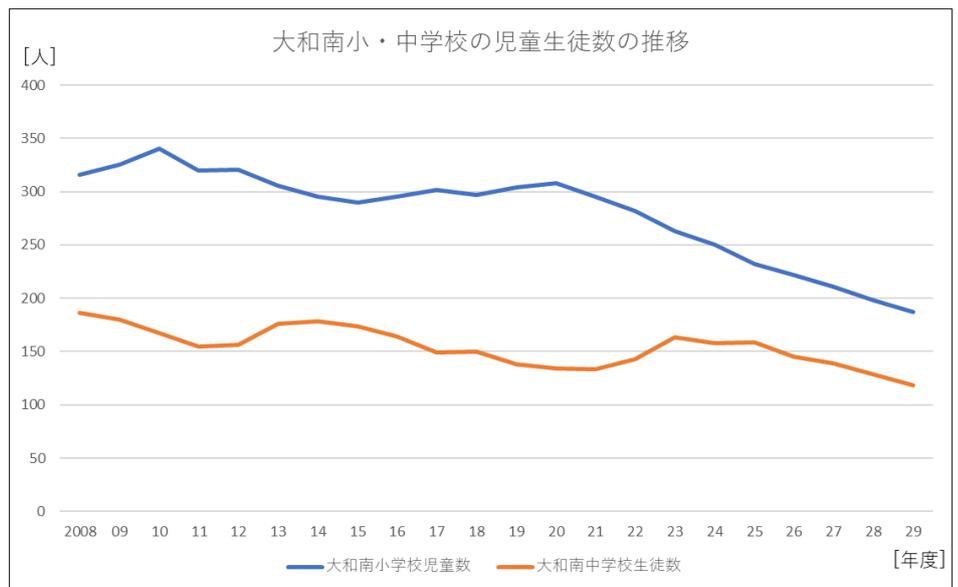
大和南小学校は液状化危険度が高い範囲に位置している。また、周辺には緊急避難場所(地震発生時)となる公園が4箇所ある。



(2)大和南地区(大和南小・中学校区)における児童生徒の状況

大和南小学校と大和南中学校の児童生徒数の20年間の推移によると、2025(令和7)年5月現在の大和南小学校の児童数は最も多い年に比べ約68%、大和南中学校は約85%まで減少してきており、今後はより速いペースで減少していくことが分かる。その結果、学級数も2028(令和10)年には大和南小学校の全学年が単学級になると想定され、市街化調整区域であることから人口増加が難しいこともあり、早急な対応が求められている。

	大和南小学校 児童数[人]	大和南中学校 生徒数[人]
2008(H20)年度	316	186
2009(H21)年度	325	180
2010(H22)年度	340	167
2011(H23)年度	320	155
2012(H24)年度	321	156
2013(H25)年度	306	176
2014(H26)年度	295	178
2015(H27)年度	290	174
2016(H28)年度	295	164
2017(H29)年度	302	149
2018(H30)年度	297	150
2019(R1)年度	304	138
2020(R2)年度	308	134
2021(R3)年度	295	133
2022(R4)年度	282	143
2023(R5)年度	263	163
2024(R6)年度	250	158
2025(R7)年度	232	159
2026(R8)年度	222	145
2027(R9)年度	211	139
2028(R10)年度	198	129
2029(R11)年度	187	118



(3)大和南小学校における学校施設の現況

1)大和南小学校の敷地及び建物諸元

大和南小学校の敷地及び建物の概要を以下のとおり整理する。

【敷地・建物諸元】

名称	大和南小学校	
所在地	〒491-0927 愛知県一宮市大和町戸塚字連田1番地2	
敷地面積	16,618 m ² (建物敷地 8,040 m ² 、運動場 8,578 m ²)	
建築面積	1,673.567 m ² (校舎)、864 m ² (屋内運動場)、52 m ² (体育器具庫)	
延床面積	6,021 m ² (校舎)、864 m ² (屋内運動場)、52 m ² (体育器具庫)	
構造	鉄筋コンクリート造	
建築年	1978(昭和53)年	
都市計画区域	尾張都市計画区域	
区域区分	市街化調整区域	
地域地区	用途地域	指定なし
	容積率	200%
	建蔽率	60%
	高さ制限	なし
	防火地域・準防火地域	指定なし(※建築基準法第22条指定)
絶対高さ	なし	
道路斜線	1.5	
隣地斜線	31m+2.5	
北側斜線	なし	
日影	あり	
道路幅員	南側道路(グラウンド側)：市道 I739 号線(幅員 3.0~3.8m) 南側道路(校舎側)：市道 I739 号線(幅員 2.0~2.4m) 東側道路：市道 I 648 号線(幅員 7.5~7.6m) 西側道路：市道 I657 号線(幅員 5.1~5.7m) プール東側道路：市道 I 750 号線(幅員 5.45~4.24m)	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する公園(街区公園) <li style="padding-left: 20px;">名称：連田(れんだ)公園 <li style="padding-left: 20px;">所在地：一宮市大和町戸塚字連田1番39外 <li style="padding-left: 20px;">開設面積：4,987 m² ・景観計画区域：田園景観ゾーン 	

【校舎各棟の概要】

棟番号	棟名称※1	構造・階数※2	建築年月	床面積
①	南舎	RC・4階	1978(S53)年5月	3,181 m ²
②	北舎	RC・4階	1978(S53)年5月	2,307 m ²
③	管理棟	RC・2階	1978(S53)年5月	441 m ²
④	渡り廊下	RC・3階	1978(S53)年5月	92 m ²
⑤-1	屋内運動場	S・1階	1979(S54)年3月	834 m ²
⑤-2	屋内運動場器具庫	S・1階	1995(H7)年3月	30 m ²
⑥	体育器具庫	S・1階	1978(S53)年5月	52 m ²

※1 棟名称及び棟番号は、本計画内で区別しやすく呼称するものであり、学校施設台帳の登録名称・番号とは異なる。

※2 RCとは、Reinforced Concreteの略でRC造は鉄筋コンクリート造のことです。

Sとは、Steelの略でS造とは鉄骨造のことです。

現況写真



① 運動場



② 南門



③ 運動場から見た校舎



④ 東門



⑤ 北門



⑥ 屋外便所



⑦ 北校舎



⑧ 屋内運動場



⑨ 屋内運動場 西側



⑩ 給食搬入路



⑪ 南校舎



⑫ 飼育小屋



⑬ 正門

第3章 施設整備のコンセプト

(1) 施設整備のコンセプト

シン学校プロジェクトにおける地域提案とともにワークショップ等を通じた市民意見を踏まえた施設整備のコンセプトを以下のとおりとした。

～施設整備のコンセプト～

小中一貫校の強みを活かした特色ある学びと
地域とともに大和南の誇りを育む、選ばれる学校

- ・ 9年間一貫した教育の実施と現代的な教育課題を踏まえた効果的な教育の実施により学区外からも『選ばれる学校』を目指す。
- ・ コミュニティの希薄化・孤立化といった課題の解決を図るため、地域のコミュニティの拠点として機能を有し、誰もが通いたくなる、集いたくなる地域の学校を目指す。
- ・ 大和南小中一貫校に通うこと、集うことが良い思い出となるよう、子ども目線での施設づくりを目指す。新規居住者を呼び込むなど、未来に向けた誇れる学校・地域づくりにつながる。

(2)基本方針

これまでのワークショップ等の意見を踏まえ、コンセプトを実現するための整備方針として以下の7項目を基本方針とする。

1)魅力的な学校づくり

①他学区からも行きたいと思える学校

児童生徒数の減少が課題の大和南小・中学校を『地域に残す』ことで、9年間一貫した教育の実施と、現代的な教育課題を踏まえた効果的な教育の実現により、学区外からも『選ばれる学校』を目指す。

②地域の誇りとなる学校

大和南地区は大和町連区内の南端に位置し、大和南小学校は戸塚ニュータウンができる際に開校した。その後、大和南中学校が開校した歴史がある。ニュータウンと共に開校した小学校であり、また大和南地域は大和町連区の中心部と離れているため、地域と学校のつながりが強く、これまで学校を核とした地域のつながりが形成されてきた。これらを継承するとともに、周辺環境に配慮しながらも地域の誇りを醸成することのできる施設デザインとし、地域のシンボルとなる学校を目指す。

③愛着がわく屋外空間・ひろば

学校内の屋外空間や広場は、児童生徒が安心して遊ぶための安全な場所であり、同時に他の児童生徒と触れ合う機会が生まれ、社会性や協調性、コミュニケーション能力などが育まれる空間となる。そのため、学校への愛着を育む仲間意識や協力する楽しさを学ぶことのできる場づくりを目指す。

2)特色ある学びの空間

①最先端の技術を活用した先進的な学びの充実

新しい時代に必要とされる情報活用能力を育成するため、児童生徒のタブレット端末を最大限活用できる環境を整備する。ICTを活用した多様な学びを実現するため、ネットワーク環境の充実のほか、大型提示装置、充電保管庫等のICT機器の設置を前提とした柔軟な学びの空間を整備する。また、タブレット学習をストレスなく行うことができる教室の規模、机のサイズに配慮した学習空間を計画する。

②小中一貫校のメリットを生かした特色あるカリキュラム

小学校と中学校の統合による小中一貫校として、小・中学校間の運営上の違いに配慮しながら、6・3制を基本に、9年間を通した小中一貫教育と教育課程特例校制度等を活用した特色あるカリキュラムの教育活動を通して、地域コミュニティの拠点としての学校づくりを目指す。

③児童生徒の探求的な学び

探求的な学びを促進するためには、学校の環境や設備を整え、児童生徒が主体的に学習に取り組めるようなインフラ整備が重要となる。そのため、教室だけでなく、図書館や自然観察の場、地域の資源を活用した学習環境を整備するとともに、パソコンやプロジェクターなど学習に必要な情報機器を整備し、児童生徒が情報収集や情報発信をスムーズに行える学習環境を整備する。

④個別最適な学び、協働的な学びの場づくり

小中一貫校では、9年間の連続性のある教育課程を編成し、教育活動が実施される。こうした中児童生徒の発達段階に応じ、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた指導の個別化とともに児童生徒の興味・関心に応じた学習の個性化を図るなど、それぞれの児童生徒にとって最適な学びが行える学習空間を計画する。また、多様な意見や価値観に触れ、多面的、多角的に考えることができるように、他者と協働して行う学びが個別最適な学びとともに現在の学校教育では重視されている。児童生徒が多様な他者とのかかわりの中で学ぶことができるように、様々な授業形態に柔軟に対応できる空間の整備を行う。

⑤充実した運動施設

運動場、屋内運動場は、体育の授業の他、集会や学校行事等、様々な使い方が想定されることから、機能の整理やルールづくりをしながら、児童と生徒が安心して運動できるよう整備する。

また、北舎と南舎の間の中庭に、低学年遊具広場の設置を検討する。

3)居心地がよく誰もの居場所となる快適な生活環境

①誰もがリラックスできる空間づくり

落ち着いた雰囲気の中でコミュニケーションや休憩を取るラウンジや、ひとりで落ち着いてクールダウンできる小スペースなど、児童生徒がその時々の状態に応じた居場所を学習空間と有機的に関連づけて配置する。また、学校に行くことが難しい児童生徒が、指導や相談をすることができるスペースの整備について検討するとともに、その動線についても十分な配慮を行うなど、多様な児童生徒の居場所となる温かみのある空間づくりを図る。

②成長(年代・体格等)に応じた生活環境

使用する児童生徒の体格に応じて、手洗いの高さや便器のサイズなどを検討することが必要となる。手洗いや流し、水飲み場を、多学年の子どもたちの使用が考えられる場所に設置するときは、身長差に対応できるよう異なる高さのものを組み合わせる。また、車椅子利用者用トイレを設けるなど、特別の支援を必要とする子どもの利用にも配慮した計画とする。

③自然を活かした温かみのある環境づくり

地域の歴史や風土、のどかな自然に囲まれた大和南の地域特性を活かすとともに、気候風土など地域環境を考慮した施設づくりを目指す。

④快適な環境づくり(設備等)

近年、夏季の猛暑は、学習への影響のみならず、児童生徒や教職員の熱中症等の体調不良を引き起こす恐れもあることから、空調機器設置の必要性が高まっている。普通教室に加え、特別教室や屋内運動場にも空調機器の設置を計画し、学習に集中でき、安全・安心な学校生活を送ることができる快適な校内環境を整備する。

4)交流・コミュニケーション

①小中が一体的に活用できる空間

9年間を見通した新しい時代の義務教育の在り方を踏まえて、小中で一貫した教育課程に対応した施設環境、学年段階の区切りに対応した空間構成や施設機能、異学年での学習や交流ができるスペースなど、9年間の系統性・連続性のある教育活動を効果的に実施できる施設環境の確保を図る。

②児童生徒が集まりコミュニケーションできる場所

待ち合わせスペース等に子どもたちが自然に集まることで、出会いや交流が生まれる場となるため、空間にゆとりがある場合、校門から昇降口までの屋外空間にベンチなどを設けたり、昇降口まわりに待合スペースを計画したりするなど、気軽に滞在できるスペースを併せて計画することで積極的に児童生徒が集まり、滞在し、コミュニケーションを誘発する空間を計画する。

③多目的に使える空間

学習内容や学習形態等に応じたコーナーの設置や、家具等を弾力的に配列することで、多様な学習内容・学習形態に対応するとともに、総合的な学習の活動の場として、個別学習、少人数指導による学習、グループ学習等に対応できる学びの場を計画する。

また、利用方法等に応じ適宜空間を分割することができるよう計画することで学年、全校等で利用できる多目的な空間づくりに配慮する。

5)地域交流 開かれた地域の拠点

①地域との関係性を活かし、見守られ、育まれる学校

学校と地域はパートナーとして相互に連携・協働することで新学習指導要領が目指す社会に開かれた教育課程の実現や地域活動の推進などの取組が進められている。そのため、学校の中だけで学びを完結することなく、地域や社会との交流の中で、様々な人や社会の課題と向き合う「地域との学び」を育む共創空間づくりを目指す。

②地域の方が利用できる場所

地域に開かれた学校づくりや部活動の地域展開を踏まえ、特別教室等の地域に開放する空間の創出について検討する。また、地域開放空間の創出だけでなく、有事の際の避難所機能の充実の観点から、家庭科室等の利用も見据えた配置とするなど、地域開放に配慮した教室配置、校内の動線検討、開放エリア・非開放エリアの区分、セキュリティ対策等に配慮した施設整備を行う。

③保育園との交流

将来のまちづくりを見据えた地域の拠点としての役割や、地域の活性化の観点から、学校施設を核とした他の公共施設との連携を図る。地域全体で子どもたちの学びと成長を支えることが重要であることから、園・学校と地域を繋ぐ子ども育成支援協議会の地域コーディネーターの活動拠点を校内に整備するなど、園・学校と地域との連携を緊密にし、さらなる活動の充実を図る。

6)安全・安心な学校

①安全・安心な学校施設

学校と地域が支え合い協働していくための共創空間を創出する一方で、共創空間を創出する上では、児童生徒の動線と地域住民等の動線との整理による明瞭なゾーニング、死角を作らない空間配置、デジタル技術の活用など防犯の視点から、校内セキュリティを確保する。

②地域の防災拠点

児童生徒や教職員の生命や心身の安全を確保するため災害に強い施設とする。また、児童生徒等だけでなく、地域の防災拠点として、地域住民が災害時に良好な避難生活を送ることができる施設を整備する。避難所となる学校施設では、被災した地域住民を受け入れ、食事の提供、生活関連物資の配布等、様々な活動が行われるため、必要なスペースや備蓄等を確保する。

7)その他の配慮事項

①教職員の働きやすい環境づくり

小中一貫校における新しい学びを実現するためには、教職員相互のより良いコミュニケーションの上に、信頼関係や協力関係を創り出すことが重要である。そのため、機能性や居住性をもつ執務空間づくりを目指すとともに、多様な働き方に対応した快適な職場環境づくりに配慮する。

②放課後児童クラブの充実

現在の定員が確保できるよう床面積を確保するとともに、放課後児童クラブ専用の出入口の設置や事務室・静養室の設置など、環境の整備をする。また、遊びや学習のプログラムの充実、保護者との連携強化などによる質の高いサービス提供を目指す。

(3)統合の方針

既存の大和南小学校及び大和南中学校に併設されている公共施設・機能について、小中一貫校として統合後の複合化等の方針を以下に示す。

施設・機能	小中一貫校への統合後の方針
大和南児童クラブ	・小中一貫校で継続利用 ・必要な規模を確保
特別教室(開放利用)	・小中一貫校で対応開始
屋外運動場(開放利用、避難所)	・小中一貫校で継続利用
屋内運動場(開放利用、避難所)	・小中一貫校で継続利用

第4章 基本計画

(1)前提条件の確認

1)現況の整理

	大和南小学校
用途地域	・ 指定なし(市街化調整区域)
敷地面積	16,618 m ² (うち運動場 8,578 m ²)
接道条件	・ 市道に接道
敷地形状	・ 東西に長い長方形であり、周辺道路から地盤が高い。 ・ 既設プールは水路南側に設置されている。
周辺環境	・ 周辺は住宅地、田畑の環境である。 ・ 北側には連田公園が隣接している。(公園への日影規制を考慮する必要あり)
立地条件	・ 大和南中学校区の中央部に位置している。
ハザード	・ 浸水ハザードは、0.5m～3.0m 未満の想定である。
埋蔵文化財	・ 埋蔵文化財包蔵地に含まれていない。
利点	・ 地域の中心に位置している。通学、地域利用がしやすい。
課題点	・ 敷地が狭く、グラウンド、テニスコート、駐車場など十分な配置ができない。 ・ 接道する道路幅員が狭い。工事時の車両動線は住宅地内の道路を使用する。

2)法的条件の整理

●建築基準法

表 建築基準法該当条項一覧

条項	内容
集団規定	
第 48 条 用途地域	・ 指定なし(市街化調整区域)
第 52 条 容積率	・ 200%
第 53 条 建ぺい率	・ 60%
第 56 条第 1 項第 1 号 道路斜線	・ 適用距離 20m、勾配 1.5
第 56 条第 1 項 2 号 隣地斜線	・ 立ち上がり 31m、勾配 2.5
第 56 条の 2 日影規制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象建築物高さ > 10m ・ 平均地盤面からの高さ 4 m、 ・ 5 m < 敷地境界線からの水平距離 ≤ 10m 4 時間 ・ 敷地境界線からの水平距離 > 10m 2.5 時間
単体規定	
第 27 条 特殊建築物	・ 別表第 1 (3)(ろ)欄 学校 3 階以上の階：耐火建築物等
第 28 条 居室採光	・ 有効採光面積 ≥ 居室床面積 / 5
第 28 条、令第 20 条の 2 居室換気	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火気使用室 ・ 有効換気面積 ≥ 居室床面積 / 20 ・ シックハウス換気回数：0.3 回/時
令第 119 条 廊下の幅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両側に居室がある場合：2.3m 以上 ・ その他の廊下における場合：1.8m 以上
令第 23 条、令第 120 条、令第 121 条 階段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅 ≥ 140cm 蹴上 ≤ 16cm(小学校)、蹴上 ≤ 18cm(中学校)、踏面 ≥ 26cm 踊場 ≥ 140cm
第 31 条 1 項 便所	・ 下水処理区域内
令第 112 条 1 項 面積区画	<p>【耐火・準耐火構造(主要構造部)で面積 1500 m²】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 床面積の 1500 m² 以内ごとに耐火・準耐火構造の床・壁、若しくは特定防火設備で区画

条項	内容
令第 112 条 11 項 竪穴区画	【準耐火構造(主要構造部)で地階又は 3 階以上の階】 ・吹抜け、階段、EV 昇降路、ダクトスペース等を準耐火構造の床・壁、若しくは防火設備で区画
令第 120 条 直通階段	・避難階・地上に通ずる一の直通階段への歩行距離 ≤ 50m (居室及び避難経路の仕上が準不燃材料以上の場合 60m)
令第 121 条 2 以上の直通階段	・5 階以下の階でその階における居室の床面積の合計が避難階の直上階にあっては 200 m ² 、その他の階にあっては 100 m ² を超えるもの ・直通階段に至る歩行経路の重複距離 ≤ 25m(30m)
令第 125 条 屋外への出口	・避難階において、階段から屋外への出口への歩行距離は、令第 120 条に規定する数値以下 ・居室の各部分から屋外への出口までの歩行距離は、令第 120 条に規定する数値の 2 倍以下
令第 126 条の 6 非常用進入口	・高さ 31m 以下にある 3 階以上の階に設置 ・道又は道に通ずる幅員 4 m 以上の通路に面する外壁に有効な窓開口部を 10m 以内ごとに設置している場合は適用除外

●消防法

表 消防法該当条項一覧

条項	内容
令別表第一 防火対象建築物区分	・(7)項 小学校、中学校
令第 10 条 1 項 3 号 消火器具	・延べ面積が 300 m ² 以上のもの
令第 11 条 屋内消火栓設備	・延べ面積 ≥ 700 m ² (耐火構造、内装は難燃以上)
令第 19 条 屋外消火栓設備	・床面積 ≥ 9000 m ² (耐火建築物)設置必要 ・床面積 ≥ 6000 m ² (準耐火建築物)設置必要
令第 21 条 自動火災報知設備	・延べ面積 ≥ 500 m ²
令第 22 条 漏電火災警報器	・延べ面積 ≥ 500 m ²
令第 23 条 消防機関へ通報する火災報知設備	・延べ面積 ≥ 1000 m ²
令第 24 条 非常警報設備	・収容人員 ≥ 50 人

令第 25 条 避難器具	・ 収容人員 ≥ 50 人
令第 26 条 誘導灯・標識	・ 避難口誘導灯、通路誘導灯、誘導標識
令第 27 条 消防用水	・ 敷地面積 ≥ 2 万 m^2 かつ、床面積 ≥ 1 万 5000 m^2 (耐火建築物)

●高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律

●人にやさしい街づくりの推進に関する条例・施行規則(愛知県)

・ 対象：特定施設(規則 3 条)

「学校その他これに類するもの」などの建築基準法における特殊建築物

・ 特定施設の新築若しくは新設、増築又は改築をしようとするものは、高齢者、障害者等が円滑に利用できるようにするために、一定の整備基準を遵守(条例第 11 条)

・ 工事着手 30 日前までに整備計画の届出をしなければならないが、国、県、市町村その他規則第 13 条で定める者については、届出は必要無し(条例第 12 条・第 20 条)

項目	整備基準
全体	高齢者、障害者等が円滑に利用できる経路(以下「利用円滑化経路」という。)を設けること
歩道及び自転車歩行者道並びに敷地内の通路、廊下その他これに類するもの及び園路(以下「通路等」という。)で利用円滑化経路を構成するものその他の規則で定める通路等	イ 有効幅員は、歩道にあつては二メートル以上、自転車歩行者道にあつては三メートル以上、通路等にあつては一・四メートル以上とすること ロ 段を設けないこと ハ 表面は、滑りにくく、平たんにすること ニ 歩道及び自転車歩行者道並びに通路等を横断する排水溝のふたは、つえ、車いすのキャスター等が落ち込まないものとする
利用円滑化経路を構成する出入口その他の規則で定める出入口	イ 有効幅員は、建築物の直接地上へ通ずる出入口のうち一以上のものは九十センチメートル以上、その他の建築物の出入口は八十センチメートル以上とすること ロ 段を設けないこと
不特定かつ多数の者が利用する階段その他の規則で定める階段	イ 回り階段としないこと ロ 手すりを設けること ハ 段鼻は、滑りにくくすること
特定施設で規則で定めるものの利用円滑化経路を構成するエレベーター	イ かごの奥行きの内りのり寸法は、一・三五メートル以上とすること ロ 出入口の有効幅員は、八十センチメートル以上とすること

	ハ 車いす使用者及び視覚障害者の利用に配慮した操作ボタン等を設けること
不特定かつ多数の者が利用する便所その他の規則で定める便所	イ 段を設けないこと ロ 床の表面は、滑りにくくすること ハ 次に定める構造の便房を設けること （1）便器は、洋式とすること（2）手すりを設けること ニ 出入口に近いものを床置き等とし、手すりを設置
特定施設で規則で定めるものの不特定かつ多数の者が利用する便所その他の規則で定める便所	前号に定める構造とするほか、出入口の有効幅員を八十センチメートル以上とするとともに、車いす使用者等が利用できる規則で定める構造の便房を設けること
特定施設に附属する駐車場	規則で定めるところにより、車いす使用者が乗車する自動車を駐車できる部分及び車いす使用者が通行できる通路を設ける
全体	高齢者、障害者等に配慮した案内表示を規則で定めるところにより行うこと

●その他法令

法令	内容
建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律	・省エネ性能に関する基準への適合義務
土壤汚染対策法	・3,000 m ² 以上の土地の形質の変更

3)大和南小学校の現況の課題

①耐力度調査の結果

- ・現在の大和南小学校の校舎は構造耐力があることから、「建て替え」に対しては補助金の対象とはならず、「長寿命化改修」であれば補助金の対象になる。

②児童の人口推移

- ・2022(令和4)年度以降各学年2クラス、6学年12学級を下回るようになっている。
- ・予測では2028(令和10)年度以降すべての学年で1クラスとなるが、「他の地域から選ばれる学校」として他の地域からの児童を受け入れる学級数が必要となるため、各学年2クラスとする必要がある。

(2)主な必要機能・諸室の基本的な考え方

将来における児童生徒数の推計や地域ニーズを考慮し、諸室を設定する。

1)普通教室・特別支援教室

普通教室：18室(小学校12教室・中学校6教室※各学年2クラス)

特別支援教室：6教室、サポートルーム：1教室、多目的室4室

2)特別教室

理科室、音楽室、美術室、技術室、家庭科室(被服・調理)

学校図書館

3)屋内運動場施設等

屋内運動場、プール(既設)

4)管理諸室

職員室・事務室、校長室・応接室、会議室、職員更衣室、職員トイレ、放送室、保健室、相談室(カウンセリング室)

5)地域開放諸室(屋内)

体育館、音楽室、美術室、家庭科室(被服・調理)、放課後児童クラブ

6)運動場等

200mトラック、野球場等

7)外構

駐車場、車寄せスペース

主な必要機能の基本的な考え方

これまでの大和南小学校基本計画ワークショップからの意見を踏まえ、大和南小中一貫校における主な必要機能及び基本的な考え方を以下に示す。

機能		基本的な考え方
学習 ブロック	普通教室	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室は可変性・柔軟性のある学びの空間とし、異学年交流に配慮した計画とする。 ・普通教室は、日照、採光、通風等の良好な環境を確保し、校舎の南面への配置に配慮する。 ・同一学年の普通教室は、同一階及び同一区画にまとめた配置を計画する。
	特別支援教室	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室は、小中学校それぞれに想定し、児童生徒の状況に応じて柔軟に運用できるよう可変性のある空間利用に配慮する。 ・普通教室と同様に南面への配置に配慮する。 ・できる限り同一階にまとめた配置、職員室及び保健室との連絡、トイレ等との位置に配慮する。
	サポートルーム(校内教育支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行きづらい、教室に入りづらい児童生徒の居場所、配慮を要する児童生徒を支援する教室を計画する。
特別学習 ブロック	特別教室	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室は、カリキュラムに応じた使用頻度と学習行為に応じて検討し、室の共有や特別教室ゾーンとして整備するなど、効率的な施設利用となるよう計画する。利用する学年や利用形態に応じ、普通教室から移動しやすい位置に配置する。 ・実験の準備、資料等の作成、教材・教具等の保管等の場として特別教室に隣接する準備室を計画する。教科内容に応じ、屋外と容易に連携可能な位置に配置する。 ・学習活動に伴い騒音、振動、臭気等を発生する教室は、他の空間に過度の影響を与えないよう配置する。 ・特別教室等を利用して放課後子ども教室を実施する。また、実施にあたり利用しやすい配置とする。
	学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成し、教育課程の展開に寄与する『学校図書館』を個別最適な学びと協働的な学びを効率よく展開できる学習環境とする。 ・児童生徒が休み時間に過ごす自分の居場所、日常的に滞在したくなるような魅力的な空間とする。 ・教室での授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集めて読み取り、自分の考えをまとめて発表するなど、児童生徒の主体的な学習活動を支援できるスペースを計画する。 ・図書や新聞、インターネット等のデジタル情報など多様なメディアを提供して、資料の探し方・集め方・選び方や記録の取り方、比較検討、情報のまとめ方等を学ぶ授業の展開に寄与するスペースを計画する。 ・地域利用も視野に入れ、子どもと地域が交流できる施設配置・動線計画とする。

機能		基本的な考え方
管理諸室 ブロック	職員室 (校務センター)	<ul style="list-style-type: none"> 弾力的かつ効率的な学校運営を実現するためには、小中学校の教職員同士の意思の疎通を図り、常に全学年の視点に立つ必要があることから、職員室、事務室等を統合した校務センターを計画する。 校長室は、小中学校2名の校長の配置を想定する。来客対応に配慮しつつ、職員室と近い位置に計画する。
	会議室 (教職員ミーティングルーム)	<ul style="list-style-type: none"> 教育の多様化や小中一貫教育による情報の共有化に対応できるように、教職員同士の交流を重視した教職員ミーティングルームを設け、教材研究や製作、生徒指導・相談、休憩などを気軽に行えるよう計画する。
	保健室	<ul style="list-style-type: none"> 保健室は、十分な日照・通風と静かな環境の確保に配慮する。 心身の発達著しい期間の子どもたちのカウンセリングの拠点としても重視し、カウンセリング機能にも配慮する。 保健室と職員室を近接させるなど、生徒の安全管理に目が届きやすい環境に配慮する。
体育施設 ブロック	屋内運動場	<ul style="list-style-type: none"> 出入口、トイレ及び更衣室等について、生徒・教職員の利用を始め、地域開放時や災害時における地域住民の利用に配慮する。 部活動の地域展開を見据え、セキュリティ対策に配慮するとともに、各種競技に支障が生じない仕様とする。 置き式の畳床を検討し、武道でも利用できるように配慮する。
	グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドは、200mトラックを配置する。
	プール	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者への委託を検討する。
外構	駐車場等	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場は、必要な台数を確保できるよう周辺用地を含めて効率的な配置を検討する。 緊急車両の進入等に配慮し、緊急時等に対応できるよう、車両のスムーズな動線を計画する。 安全な児童生徒の登下校、車両の進入等ができるよう、周辺の道路環境等を考慮し、校門等の配置を計画する。

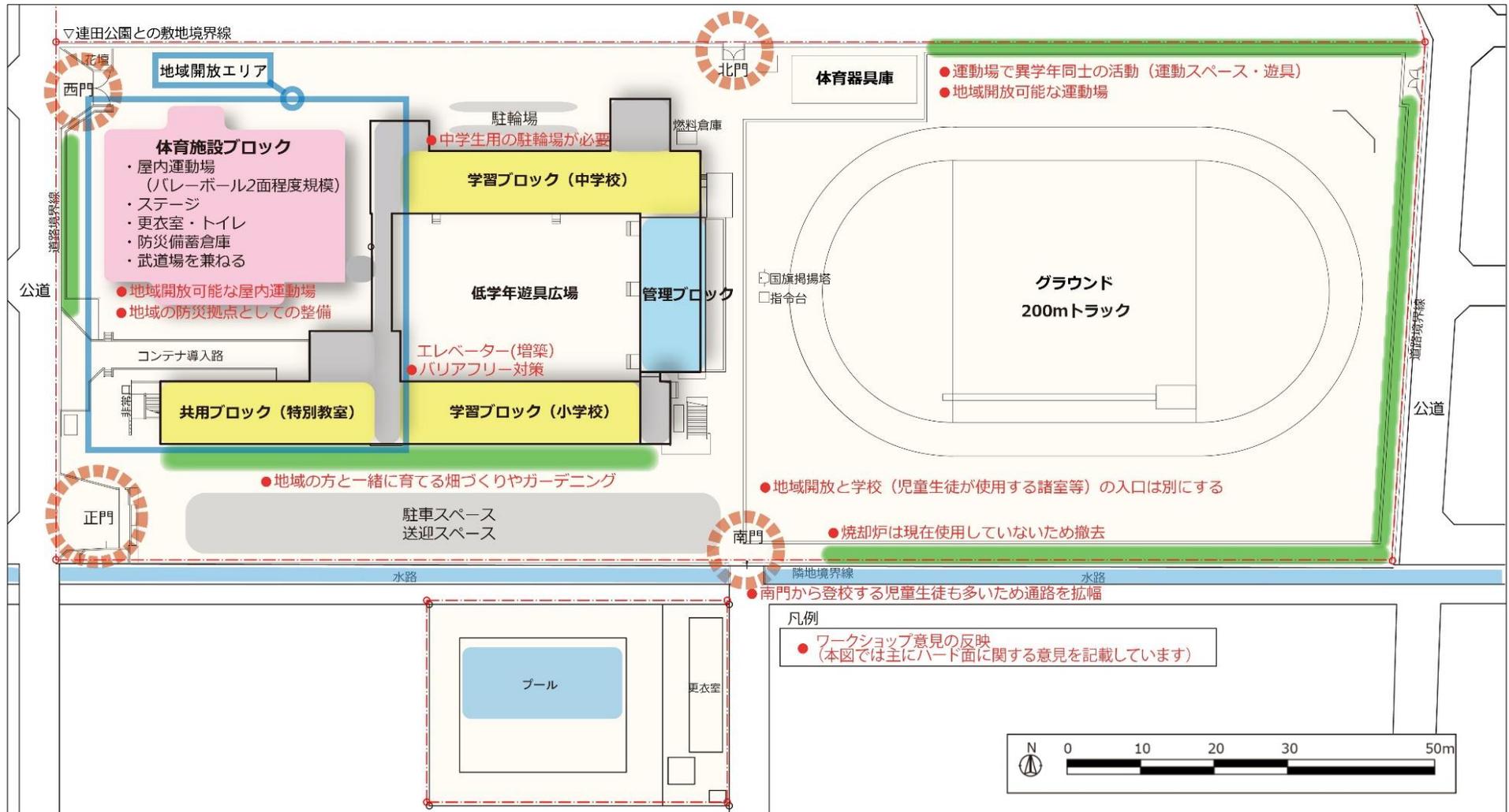
機能	基本的な考え方
地域開放施設・複合化施設 を想定する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の学びの空間を前提としつつ、地域住民に学校施設の開放を検討する。学校運営への地域住民の積極的参加を推進し、学校と地域住民等が連携して教育を進める共創空間として、開かれた学校づくりの推進を図る。 ・ 地域開放するエリアを設ける場合は、児童生徒の安全に十分配慮されていることを前提とする。 ・ 地域開放するエリアについては、地域の需要や運営状況に合わせて時間的、空間的に区切り、段階に応じて柔軟に変更できる空間構成を検討する。 ・ 管理運営の体制等については、学校に過度の負担がかからないよう設計段階から関係者と十分に調整する。 ・ 以下の施設の地域開放を検討する。
特別教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽室・美術室・技術室・家庭科室(被服・調理)・図書室
運動施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内運動場、グラウンド
放課後児童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同一敷地内に放課後児童クラブを計画する。(放課後児童クラブを継続する。)

(3) 施設整備計画の検討

1) ブロックプラン

主な必要諸室・機能をもとに以下のとおり配置ゾーニング図を整理する。

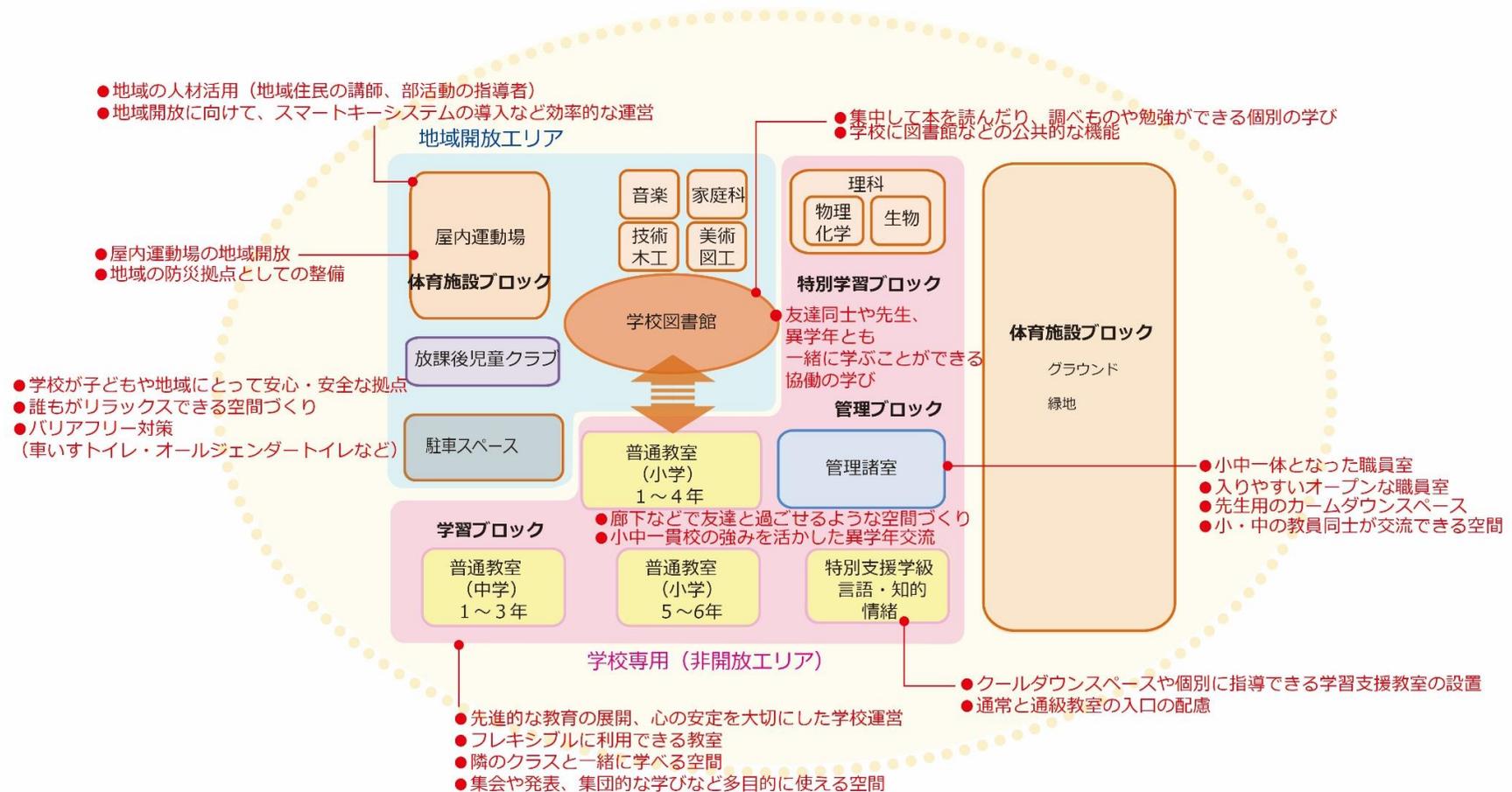
各ブロックゾーンの考え方には、ワークショップで取りまとめた地域住民の意見を反映する。



2)機能構成

以下の点を踏まえつつ、大和南小中一貫校の機能構成を整理する。

- 必要機能・諸室の基本的な考え方はワークショップの意見を反映する。
- 既存校舎の長寿命化改修によって、教科教室等の有機的な連携による多様な活動が展開できる機能構成とする。
- 『学校図書館』を児童生徒の学習活動の中心となるように検討する。屋内運動場は、地域利用も視野に入れ、児童生徒と地域との交流を促進できる施設とする。

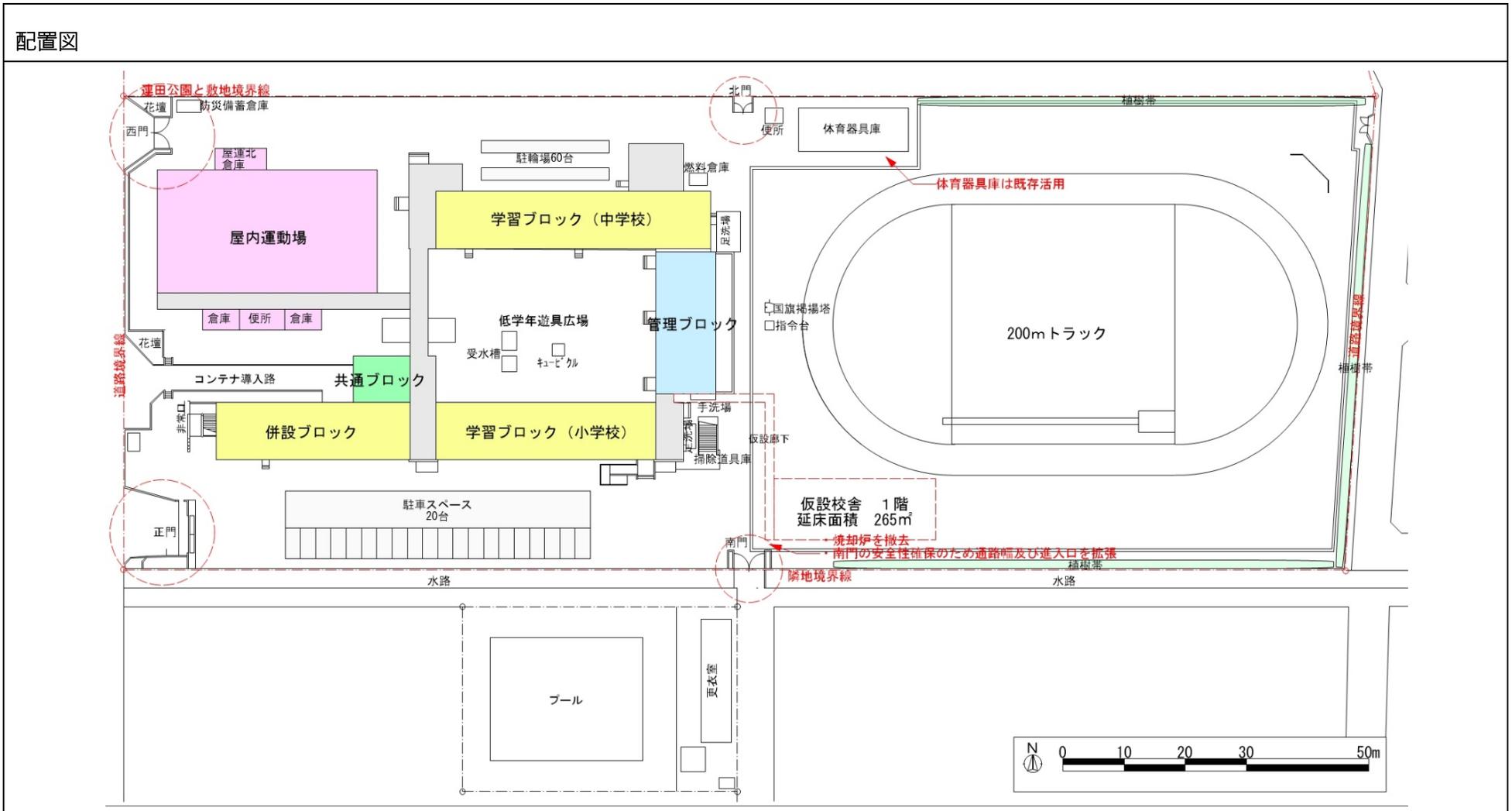


凡例

●	ワークショップ意見の反映 (本図では主にハード面に関する意見を記載)
---	---------------------------------------

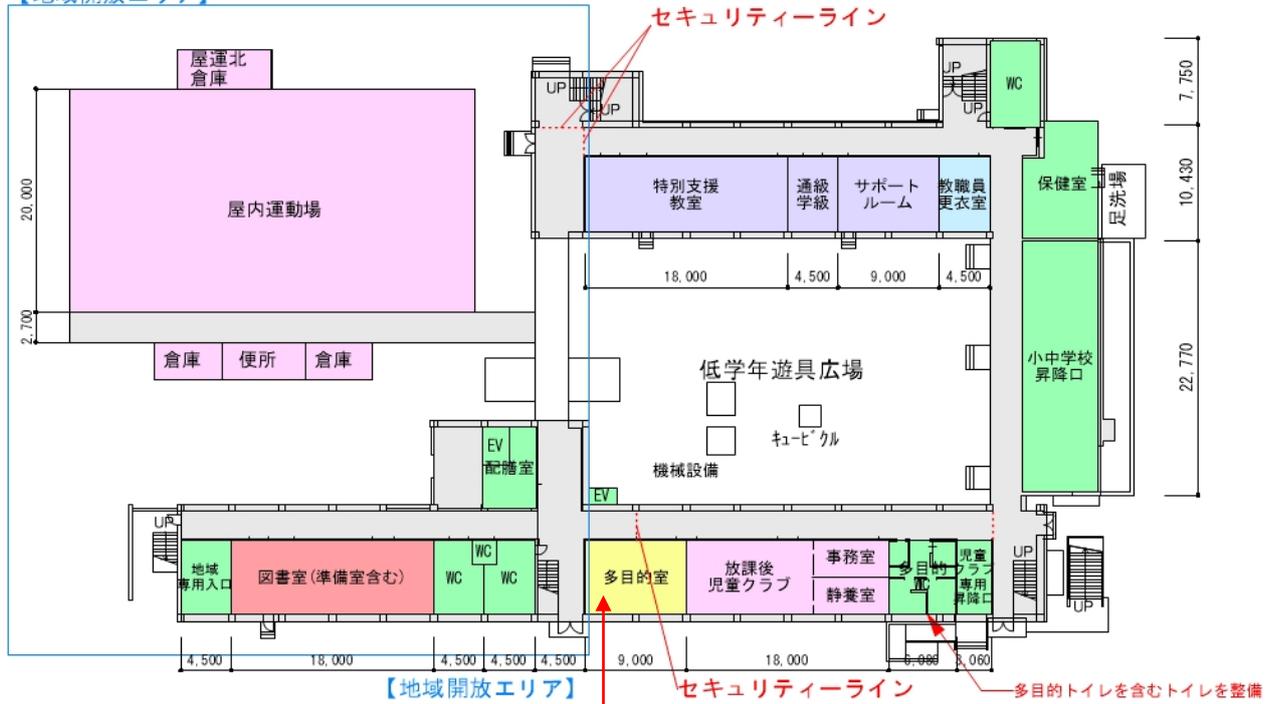
3)長寿命化改修計画

以下のとおり長寿命化改修計画における配置図及び各階平面図を整理する。



1階・2階平面図(Scale=1:600)

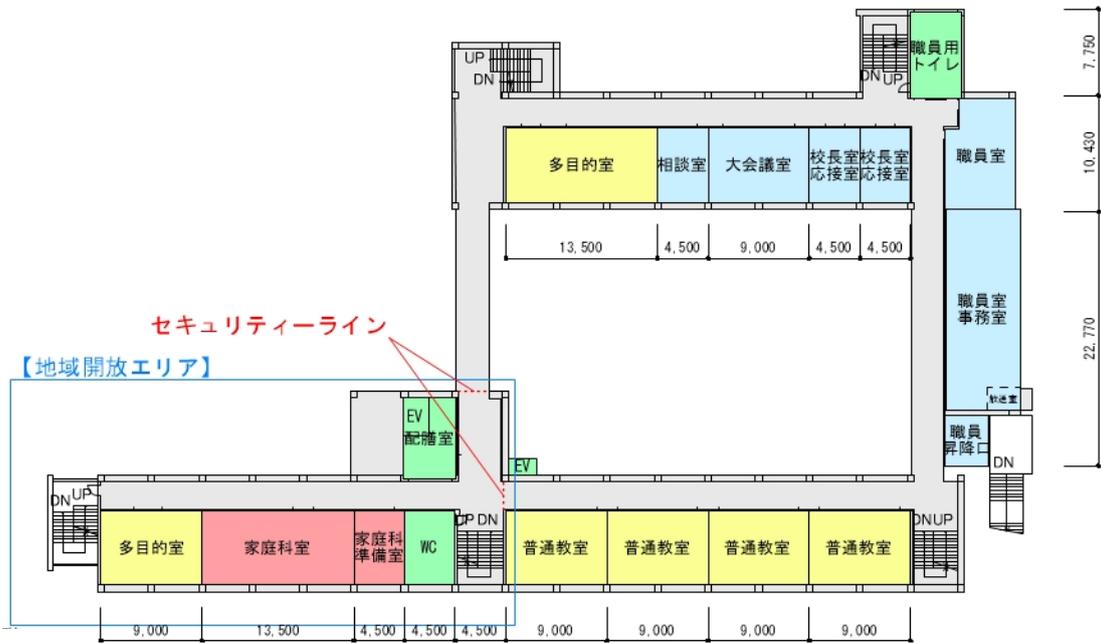
【地域開放エリア】



1階

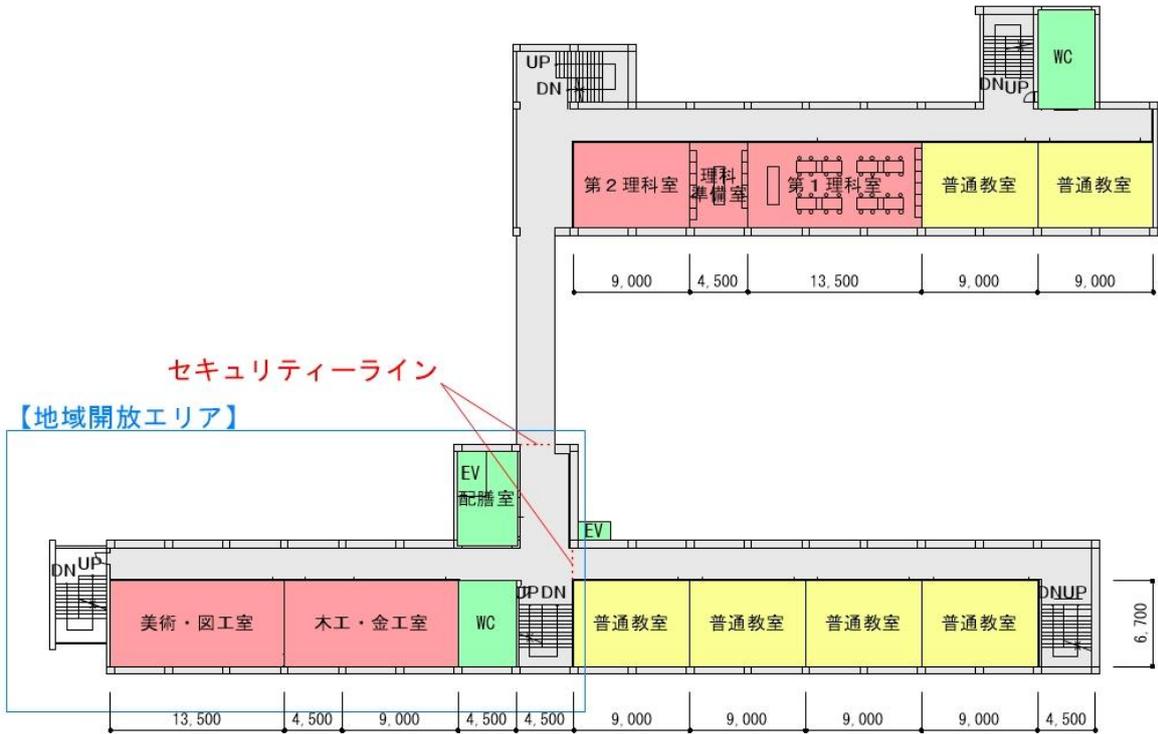
放課後児童クラブ開所時は、放課後児童クラブ室として使用

【地域開放エリア】

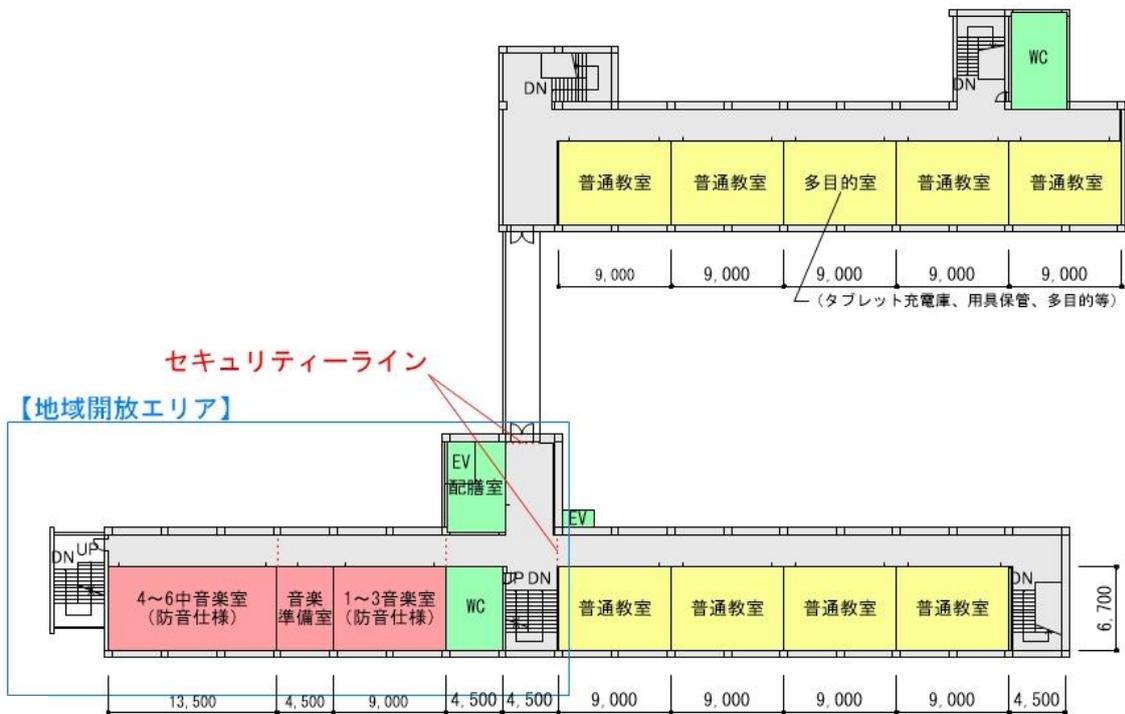


2階

3階・4階平面図(Scale=1:600)



3階



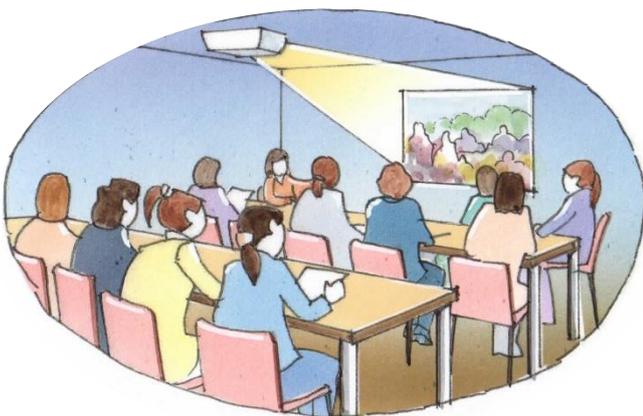
4階

(4)大和南小中一貫校での活動イメージ

これまでの検討内容を踏まえた大和南小中一貫校の各諸室の活動イメージ図は以下のとおりである。



家庭科室で地域の方々と交流する様子



多目的室での映像学習の様子



美術室を使った作品お披露目会の様子

(5)構造計画の基本的な考え方

1)構造の安全性・耐久性

- ・大和南小中一貫校は、児童生徒、教職員が学習、生活の場として1日の大半を過ごすだけでなく、学校開放時や緊急の災害時に多数の地域住民が利用することも考慮し、十分な安全性能が確保できる構造とする。
- ・大地震後でも構造体等の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを基本とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるよう、構造の安全性を確保できる設計とする。

2)浸水危険度に考慮した構造計画

- ・浸水ハザードマップにおける浸水深0.5～3.0m未満(想定)を考慮し、設計段階では校舎施設等の地盤面やフロア高さの検討を行う。

3)愛知県産木材の積極的な活用

- ・内装等には愛知県産木材を積極的に活用し、児童生徒・教職員・地域にとって温かみを感じられる学校とする。

(6)設備の基本方針

1)設備計画の基本的な考え方

設備は、安全性、快適性、省エネルギー性、機能性、経済性、メンテナンス性、CO₂排出量削減をはじめとした環境等への配慮に取り組むものとする。児童生徒の健康や授業に集中できる環境づくりのために空調設備を整備する。

太陽光・太陽熱利用、風力等の再生可能エネルギーの導入を検討し、CO₂排出量削減に努める。環境教育や理科教育のための再生可能エネルギーの活用に配慮する。

2)電気設備計画

①照明・電灯コンセント設備

- ・自然採光を積極的に取り入れ、また、高効率型器具、省エネルギー型器具等の採用を積極的に行う等、照明負荷の削減について、十分配慮した計画とする。
- ・照明はLED照明を導入し、また、各室の利用用途に応じた消点灯方法(エリア別人感センサーの導入、消し忘れ防止策)とし、省エネルギー化を図る。

②情報通信設備

- ・校内全体で高速で安定した無線LAN環境を整備し、普通教室及び特別教室でのタブレットを活用した授業や、屋内運動場及び屋外で行う様々な活動に対応できるよう配慮する。
- ・各諸室において、必要に応じて有線LANを利用できるよう整備する。
- ・LAN技術の革新に対応できるよう配線・ネットワーク機器交換の容易な設備を設置する。

③誘導支援設備

- ・必要に応じ、出入口等にインターホン等を設置する。

④校内放送・テレビ受信

- ・職員室から運動場を含めた校内全体への放送設備を設ける。
- ・テレビ放送受信設備の設置を適切に行う。
- ・放送室には、各種行事等に対応できる放送設備を計画する。

⑤受変電設備

- ・受変電設備、分電盤、制御盤等について、適切に整備する。

⑥警備設備

- ・警備システムについては、機械警備を基本とし、防犯カメラや防犯モニター、電子錠を必要に応じて整備する。

3)給排水衛生設備計画

衛生器具類は、ユニバーサルデザインに十分配慮しつつ、節水型の器具を採用する。運動場の散水等、外部での設備についても適切に整備する。

4)空調換気設備計画

空調設備は、管理諸室、図書館、特別教室及び普通教室等へ導入し、各諸室において十分な換気ができるよう配慮する。

5)設備計画等に係る検討事項

設備計画等に係る検討事項を以下に整理する。基本設計段階においては、具体的な施設の運営方針に基づき設備計画の方針を定める。

①防災施設

- ・防災備蓄倉庫、非常電源切替装置を計画する。
- ・防災面を考慮しつつ、避難所が開設されても学校の再開が可能な動線を計画する。
- ・避難所として利用する場合に、安全に過ごせるような設備や空間を計画する。

②サーバー室

- ・メンテナンスに配慮し、職員室に近接した位置に配置する。

③トイレ

- ・児童生徒用トイレ、教職員用トイレ、多目的トイレ(オストメイト付)を設置する。
- ・洋式便器、乾式床を整備する。
- ・児童生徒の多様性に配慮したトイレとする。

④乗用エレベーター

- ・エレベーターについては、設置に向け今後協議する。
- ・配送用エレベーターは衛生上の観点から共用としない。

⑤シャワー

- ・保健室に衣服を汚した児童のためのシャワーを計画する。

(7)概算事業費

大和南小中一貫校整備に係る概算事業費を以下に示す。なお、下記内容は現時点(2025年11月)での想定であり、今後の詳細な検討により変更する可能性がある。

総事業費 約 25.4 億円(税込)

■長寿命化改修(屋内運動場を除く) 一部仮設校舎建設

大項目	細目		数量	単位	単価(千円)	金額(千円)	備考
調査設計費	建築設計監理費	既設改修	1	式		173,000	告示8号:教育施設(構造を除く)
	調査設計費 合計					173,000	①
建設費	改修工事	既設校舎	6,021	m ²	330	1,986,930	建築工事単価の60%
	アスベスト除却費	校舎	6,021	m ²	10	60,210	処理面積ではなく延床面積に対するm ² 単価
	エレベーター増築		1	式		30,000	
	仮設校舎建設費	校舎・渡り廊下	300	m ²	170	51,000	リース事業者の参考金額
	仮設校舎改修費	校舎	250	m ²	40	10,000	1)図書室・更衣室・保健室→2)職員室・校長室 →3)普通教室→4)児童クラブ ※トイレ以外改修
	建設費 合計					2,138,140	②
計						2,311,140	①+②
消費税	10%					231,114	
総合計						2,542,254	

※2018年デフレター建築総合:105.4 2024年デフレター建築総合:128.4 上昇率:121.8(1.22倍) 一定の上昇率として設定

※上記の概算事業費には、什器備品費、移転費は含んでいません。

(8)事業スケジュール

2026～2027(令和8～9)年度に基本設計・実施設計、2028～2030(令和10～12)年度に仮設校舎工事及び既設校舎改修工事を行い、共用開始は概ね2031(令和13)年度を想定する。

項目	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度	2028(令和10)年度	2029(令和11)年度	2030(令和12)年度	2031(令和13)年度
事業スケジュール	基本設計 	実施設計 	仮設校舎建設 	長寿命化改修工事 	仮設校舎解体 	供用開始 

(9)効果的な施設・運営の配慮事項

1)維持管理

- ・効率的で将来の用途転用も想定した学校施設計画を行う。
- ・維持管理費削減が図れるメンテナンス性に優れた建材を利用する。

2)児童生徒の通学学習環境

- ・工事期間中であっても、行事の中止や教室の明るさ確保など、児童生徒の学習環境に与える影響を最小限に抑える。

3)適正な規模・事業費等

- ・効率的な平面計画・配置計画を行い、適正な規模、工事費となるよう計画する。
- ・財政負担に考慮しつつ最適な学習環境を確保する。

4)周辺環境への配慮

- ・周辺環境への影響を最小限に抑えられるよう、既存樹木や校庭の緑の保全に配慮する。
- ・周辺道路の渋滞や騒音を避けるための搬入計画や工事計画を作成する。

参考資料

(1) ワークショップ開催概要

一宮市が進めている「シン学校プロジェクト」では、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆さまからご意見をいただき、一緒に考えていこうというものとしている。

本ワークショップでは、大和町連区地域づくり協議会、学校運営協議会、PTA 等保護者の皆さま、その他大和南小・中学校に関わる方に参加いただき、様々な視点から新しい時代にふさわしい学校の在り方に関して意見を頂いた。

(2) ワークショップ開催スケジュール

市民・地域参加型ワークショップを計4回実施した。実施概要を以下に示す。

日時・場所	テーマ	参加者数
第1回 2024(令和6)年12月21日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時	継承したい小学校・中学校の特色と施設コンセプト ①新たな学校に継承したい取り組みについて ②どんな学校施設であってほしいか(理念)	17
第2回 2025(令和7)年1月18日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時	新たな学校施設について(1) ①教育の場としての教室等のあり方 ②生活の場としての学校施設のあり方 ※運動施設を含む	16
第3回 2025(令和7)年2月22日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時	新たな学校施設について(2) ①誰もが安心して過ごせる学校を目指して ②児童生徒が先生と交流しやすい環境づくり	14
第4回 2025(令和7)年3月29日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時	地域における学校施設のあり方について ①学校の地域開放について ②新たな学校整備に向けた方針	16
第5回 2025(令和7)年5月17日(土) オリナス一宮 9時30分～12時	ワークショップを踏まえた基本計画素案 ①基本コンセプト・基本方針(案) ②主な必要機能・諸室の基本的な考え方(案) ③配置ゾーニング図(案)	16

(3) ワークショップ各回の開催状況

ア. 第1回ワークショップ

日時・場所	2024(令和6)年12月21日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時
テーマ	<p>継承したい小学校・中学校の特色と施設コンセプト</p> <p>①新たな学校に継承したい取り組みについて</p> <p>②どんな学校施設であってほしいか(理念)</p>
主な意見	<p>①新たな学校に継承したい取り組みについての主な意見</p> <p>○地域とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の一体化(地域と学校が相互に溶け込む) ・地域の人ボランティア活動の継続・推進(読み聞かせ・授業の補助・地域清掃の手伝い、見守り運動) ・地域の行事の継続(まつり、子ども会のスポーツ大会、ドッジビー大会、野球、ソフトボール) <p>○異学年の交流・絆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たて割りのチームワーク(縦割り清掃など) ・ふれあい活動(わくペア)：異学年で読み聞かせ等を実施 ・少人数だからこそその異学年交流・絆 ・移動児童館(こっこ)：異年齢交流により取り組み <p>○小中合同の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生に中学生が教える(中学校では引っ込みがちな子も小学生に教えることで輝くことがある) ・小中ごみゼロ運動：地域の様々な場所で小中学生が班になって清掃活動 <p>○子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食や放課後児童クラブ等も継続してほしい。 <p>②どんな学校施設であってほしいか(理念)の主な意見</p> <p>○コミュニケーションのある空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・児童同士、地域ともコミュニケーションがとれる空間 ・地域の人でも使える図書館や会議室(地域交流) <p>○魅力ある学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和南のブランドを大切に、周りからうらやましがられる学校 ・自然光が入る明るい教室・学校 <p>○学習環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な教育の展開、心の安定を大切にしたい学校 <p>○地域拠点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就学児～高齢者まで集えるところ ・地域との交流場所。地域の人でも利用できるようにする。

	<p>○子供に寄りそう教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中各々の発達段階に適した学習、教育活動を実現できる施設 <p>○過ごしやすい・使いやすい施設(機能・空間)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生、中庭、広いコミュニケーションスペース ・綺麗なトイレ、全館空調 ・雨の日も運動できるトレーニングルーム
--	---

《ワークショップ風景》



イ. 第2回ワークショップ

日時・場所	2025(令和7)年1月18日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時
テーマ	<p>新たな学校施設について(1)</p> <p>①教育の場としての教室等のあり方</p> <p>②生活の場としての学校施設のあり方</p> <p>※運動施設を含む</p>
主な意見	<p>①教育の場としての教室等のあり方に関する主な意見</p> <p>【個別最適な学び】</p> <p>○教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人学習ができるブースで集中して学習 ・ベランダを設置し植物の観察(夏はグリーンカーテン) ・できる子とできない子を差別されない教室 <p>○特別教室等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使って自由に調べものができる部屋 ・先進的な技術に触れられる部屋 ・音楽室で一人で音楽を聴くことができる。 <p>○図書室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して本を読んだり、調べものや勉強ができる個室。衝立で仕切られた机など <p>○屋外空間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広いスペースと年齢ごとに遊べる道具、個別の遊びも可能 <p>【協働的な学び】</p> <p>○教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から学ぶことができる授業 ・友達同士で勉強を教え合う ・柔軟性のある教室で隣のクラスと一緒に学ぶ <p>○オープン(フリー)スペース○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年の生徒から勉強を教えてもらう。 ・地域や先生と交流する場所 ・子供や地域の作品を展示、器楽、音楽発表会などができる空間 ・児童生徒の集会、地域の方との話合いができる空間 <p>○図書室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用した学習(タブレット、Zoom など) ・大画面で映画鑑賞をするような場所 <p>○校庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異学年で運動や植物を育てたりする活動をする。みんなで探検 <p>②生活の場としての学校施設のあり方に関する主な意見</p> <p>○交流</p>

- ・地域の人に開放される休憩スペース・ベンチ
- ・芝生空間に座れるような場所があり友達と会話をする。
- ・廊下にテーブルを設置し、他クラスの友達とも過ごせる空間
- ・地域活動でも利用できる体育館、教室
- ・ランチルームで友達や地域の人と食事

○居心地の良い場所

(空間)

- ・隠れ家のような場所、一人になれる場所
- ・小さな部屋で先生と個別に相談できれば
- ・広い窓から地域の風景を見れる

(設備)

- ・明るくきれいなトイレ、多目的トイレ
- ・廊下や壁を木材に。空調設備の完備

《ワークショップ風景》



ウ. 第3回ワークショップ

日時・場所	2025(令和7)年2月22日(土)大和公民館大会議室 18時～20時
テーマ	<p>新たな学校施設について(2)</p> <p>①誰もが安心して過ごせる学校を目指して</p> <p>②児童生徒が先生と交流しやすい環境づくり</p>
主な意見	<p>①誰もが安心して過ごせる学校を目指して</p> <p>【多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設に関する主な意見】</p> <p>○配慮した空間・スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールダウンスペースがあるとよい。 ・通級の入り口を通常の入りと分ける。 ・個別に指導できる学習支援教室を設ける。 <p>○支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級に通っている子どもの、所属学級・学校での時間割等の配慮が必要・専属の教員が配置されたスクールサポートルームの設置 <p>○保健室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気分が悪くなった子の嘔吐や小学生の低学年の場合お漏らしをする場合もある。その際の対応ができるようにシャワーの設置は必要 ・処置、休養、相談、事務のスペースをそれぞれ確保する。 <p>○ジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オールジェンダートイレは必要 <p>○バリアフリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応のトイレを各階に設置。またエレベーターの設置 <p>○設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援、通級学級の設備の充実 ・温水便座のトイレ <p>【安全・安心な学校施設に関する主な意見】</p> <p><安心して過ごせる空間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで過ごせる空間・教室のそばにデンなどの空間があるとよい。 ・階段の高さを小中それぞれの体格に合わせる。 ・地域住民の利用も考慮し、セキュリティ対策も必要 ・職員室から人の出入りが見えるような工夫があるとよい。 <p>○相談室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に1対1で相談できる場所があるとよい。 ・先生と話すことはハードルがある生徒も相談室は気楽に利用している。 ・相談員の設置は必要 <p>○適応教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室や適応教室は靴下で過ごせるようにすると気持ちが落ち着くかも。 <p>②児童生徒が先生と交流しやすい環境づくりに関する主な意見</p>

○職員室

- ・廊下側をガラス張りで見えやすく。採光を取り入れた明るく広い職員室
- ・オープンな職員室でカウンターを設置。入りやすいし、話しもしやすい。
- ・子どもが気軽に入れる空間づくり
- ・小中学校の職員室は一体とし、相互の交流を図れるようにする。
- ・オープンすぎると先生も落ち着けないすりガラス程度の配慮はあるとよい。
- ・先生たちの個人用ロッカー

○相談室

- ・相談室はあまり密室にならないよう、でもプライバシーへの配慮も必要
- ・タブレットで児童生徒と先生が繋がるようにする(相談がしやすい工夫)

○休憩室・交流スペース

- ・小・中の教員同士で交流できる空間
- ・先生用のカームダウン室が必要

○教材室

- ・学年・教科ごとに教材が異なるため、小中別々に設ける。
- ・パーティションで仕切れるようにし、対応の幅を広げられるようにする。

《ワークショップ風景》



エ. 第4回ワークショップ

日時・場所	2025(令和7)年3月29日(土) 大和公民館大会議室 18時～20時
テーマ	<p>地域における学校施設のあり方について</p> <p>①学校の地域開放について</p> <p>②新たな学校整備に向けた方針</p>
主な意見	<p>①学校の地域開放について</p> <p>【地域と連携した学びについての主な意見】</p> <p>○地域住民が講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を講師・指導者になり子どもたちに教える(出張授業、部活 など) ・幼いころから障がい児教育にふれあう ・福祉学習の一環としての小学生と高齢者とのふれあい <p>○システムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校⇄地域の双方向で依頼ができるようにする。 ・地域人材活用システムや学習・環境整備プラットフォームなどのコーディネーターが必要 <p>○大和南らしい地域開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が参加できる会 ・地域が教える昔遊び ・福祉学習の一環としてのこどもと高齢者とのふれあい <p>【地域に開放する学校施設についての主な意見】</p> <p>○運動場・屋内運動場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場・屋内運動場の開放(部活動廃止による運動場所、遊び場の確保) ・下校後の外遊びが活発にできるように施設を開放できるとよい。 <p>○図書室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を地域に開放して子どもと地域の交流を図る。 ・図書室を一宮市立図書館分館として地域の人も利用可能に。 <p>○コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ施設、多目的教室を開放して交流、利用しやすいようにする。道具も利用可能とする。 ・現在の利用施設は継続利用できるようにしてほしい。 <p>○公共的役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が利用できる小ホールのような空間と公民館的機能もあるとよい。 <p>○相談室・適応教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に1対1で相談できる場所 ・先生以外に相談できる場所 <p>【地域開放に向けた課題と対策に関しての主な意見】</p> <p>○セキュリティ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート機能より常駐管理者(人)の方がセキュリティ面で安心と思う。 ・地域開放に向けてスマートキーシステムを完備し、施設管理をしっかり行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の入口を見通しの良い場所にし、地域利用と学校の入口を別にする。 ○人員の負担 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が利用するときの鍵や手続きを誰がやるか、学校教員の負担にならないか⇒負担軽減対策 ○運営課題 <ul style="list-style-type: none"> ・事故や破損があった場合の責任の在り方 ・セキュリティのスマホ利用は高齢者には難しい。 ・駐車場が足りない、校庭で遊んでいる子もいるので危ない。 ●新たな学校整備に向けた方針 【新たな学校整備にむけ「大切に思う」こと】 ○魅力ある 選ばれる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある成長する学校を目指す・住みたくなる・通いたくなる魅力的な学校 ・行きたくなるような魅力的な学校にする。 ・個性豊かな個々の持ち味を伸ばせる文化的、体育的な活動の充実 ・子どもの自主性を生かした探求心あふれる学びの場構築 ・お互いに思いやりが深まる学校づくり ・みんながワクワクする。 ・安心・安全な拠点 ○誇り <ul style="list-style-type: none"> ・大和南ブランドを高める。⇒個別最適な学びや治安の良さなど、大和南地域に誇りを持てるような地域にする。 ・誇りに思える学校 ・大和南らしい地域と交わり・共生 ○特色のある教育・施設 <ul style="list-style-type: none"> ・大和南でしかできない特色のあるカリキュラムを持った学校 ・特色あるカリキュラム・先進的な教育(例：ICT、陸上など) ・自由でゆとりのある空間⇒自由な発想を生む。
--	---

《ワークショップ風景》



オ. 第5回ワークショップ

日時・場所	2025(令和7)年5月17日(土)9時30分～12時 オリナス一宮
テーマ	ワークショップを踏まえた基本計画素案 ①基本コンセプト・基本方針(案) ②主な必要機能・諸室の基本的な考え方(案) ③配置ゾーニング図(案)
主な意見	①基本コンセプト・基本方針(案) 【『整備コンセプト・基本方針』についての主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども目線での施設づくりを行ってほしい。 ・地域が学校を見守る関係性を続けてほしい。 ・小中一貫校とするメリットを生かした学校づくりを行ってほしい。 ・教育課程特例校制度を活かした学校づくり ・小規模特認校を活かして学区外から人を呼び、個に応じた学習を行ってほしい。 ・探求力を育むことを大事にしてほしい。 ・多目的に使える空間(ランチ・コミュニケーション、ミーティング) ・キーワード意見:「誰にも愛される」「選ばれる学校」「シンボリック」 ②主な必要機能・諸室の基本的な考え方(案) ○諸室の構成について <ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングセンターを活かした地域交流を行いたい。 ・機能は学校教育を中心とすべき。 ・民生委員の方が集う場所もあった方がよい。 ・開放エリアと非開放エリアの通路の安全確保をしてほしい。 ○諸室の環境等 <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーな施設が良い。 ・ネット環境は学校全体として整えてほしい。 ・ランチルームは床が特徴的で多目的に使いたい。 ・学年で利用できるような少し大きめの多目的室があるとよい。 ・小中では授業形態が異なるため、防音対策ができるとよい。 ・カームダウン室や開放的なオープンな教室も取り入れてほしい。 ③配置ゾーニング図(案) ○小学校敷地に関すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・連田公園の機能も確保してほしい。 ・授業時間外も小中学生が外で過ごせる場を確保してほしい。 ○図書館(ラーニングセンター)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある図書館にしてもらいたい。 ○プール <ul style="list-style-type: none"> ・プールをなくし、民間プールの利用を検討

- ・現在のプール部分を駐車場にはどうか。
- 地域開放
 - ・木材を使った優しい印象の空間にしてほしい。
 - ・屋内運動場を一般の避難施設として利用
 - ・地域の人も利用できるような広場として低学年広場を整備してほしい。
 - ・多目的に利用できるような大階段や大きな広場空間があるとよい。
- 既存施設
 - ・南門は現時点でも通学路となっているので、残してもらいたい。
 - ・焼却炉については使用していないため撤去して良い。
- 災害時の対策
 - ・災害時の車での一斉引き取りの際、南門～西門に抜けられるよう、一方通行で対応できるような車の動線確保
 - ・災害時に車は校庭に入れるのか。避難ルートを考えて方がよい。
- セキュリティ
 - ・地域開放するのでセキュリティは強化してほしい。
 - ・地域開放は時間帯やどこまでの空間を開放するか明確な区切りが必要

《ワークショップ風景》



(4)ワークショップ実施に関するアンケート

今後のワークショップをより良いものにするために、参加者を対象にワークショップの満足度や感想、言い足りなかった意見等をアンケート形式でうかがった。

以下にアンケート結果を示す。

■対象者：第3回ワークショップ参加者 14名

■ワークショップの満足度

満足度	実数
大変満足できた	3
満足できた	7
どちらでもない	3
あまり満足できなかった	0
不満がある	0
未回答	1

■自由意見（記載内容は原文のまま記す。）

満足度	ワークショップ感想(自由意見)
満足できた	地域の特徴を活かした、開放的な小中一貫校設立したい。身体に障害のある子供も校内を往来できるように設備、配慮されたい。学校内全域、防犯カメラを設置してほしい。
満足できた	本日の課題(テーマ)が難しく、聞きなれないワードが多かったのですが、グループ内に校長先生がみえたので、いろいろと吸収でき有意義でした。1～4班のメンバー数に偏りがあるので、均等にしてほしいです。最後のグループは再編成とかできないですか？当初は毎回グループ編成があると思っていました。いろんな人とのワークショップをしたいです。新学校の計画の目途がたったのならば、今回のメンバーを招待して、しっかりと内容を共有していただきたいです。
満足できた	自由に提言される内容を、多岐にわたり交換されて良かったと思う。子どもたちが通う小中学校一貫校が、より楽しく充実されたものになることを願います。

満足度	ワークショップ感想(自由意見)
満足できた	話し合いながらポストイットを貼っていくと良いと思った。ポストイットを個々で書いてから貼ると、取りまとめがむずかしい(発表時)。いろいろな人がいろんなことを考える状態は良いと思った。最後はワークショップをやった事に意義があるのではなく、きちんと反映するようにしてほしいし、最終的にワークショップの何が採用されたかを、具体的にわかるようにしてほしい。
満足できた	多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設への意見について、当事者(現在支援級に在籍している方や、児童発達支援を利用している児童の保護者など)にも意見を聞いてほしいです。ワークショップのはじめには、グループの人は毎回変えると聞いていましたが、ここまで一切ありませんでした。様々な立場の方の意見を聞いてみたかったので、残念です。
満足できた	地域の意見が活かされた学校を実現出来たらいいなと思う。意見を出しただけ、というのはなくして行ってほしいと思います。
満足できた	予算の事もあると思いますが、地域の中核としての大切な学校ですので、地域の方々の思いを十分に汲んでいただければと思います。

■対象者：第4回ワークショップ参加者16名

■ワークショップの満足度

満足度	実数
大変満足できた	1
満足できた	10
どちらでもない	1
あまり満足できなかった	1
不満がある	0
未回答	3

■自由意見（記載内容は原文のまま記す。）

満足度	ワークショップ感想(自由意見)
大変満足できた	自由な発言に対し、上手にまとめたり進行してくださりありがとうございます。いろいろな方向からの考え方や意見が聞けて、とても自分にとって深められるいい場でした。開催時期が夜なので、子育て世代には辛いです。せめていろいろな時間帯で開催して頂けるとありがたいです。
満足できた	拡張計画の具体的な話が、次回聞きたいです。
満足できた	大和南、一宮市小中一貫校のモデルとして、質実ともに最新設備を備えて頂きたい。
満足できた	5回目のワークショップ開催、ありがとうございます。地域住民の熱い想いを受け入れた計画案を期待しています。
満足できた	だんだん内容が難しくなって、意見をだしづらくなってきましたが、皆さんの意見を聞いて納得できることが多いです。
満足できた	大和南について、みんなが本当に誠意をもって話をしていることがよくわかった。いい会でした。ぜひ、いい形のものができるといいなと思っています。
満足できた	意見をぜひ反映させてください。連田公園の移転が必要であればお願いします。
満足できた	言わなければと思っていたことは伝えました。とにかく、小中一貫のメリットを生かす学校の在り方を全面に出してください。
どちらでもない	学力向上、少人数指導、1学年2クラス保障。通わせたい学校、通いたい学校

■対象者：第5回ワークショップ参加者16名

■ワークショップの満足度

満足度	実数
大変満足できた	4
満足できた	10
どちらでもない	2
あまり満足できなかった	0
不満がある	0
未回答	0

■自由意見（記載内容は原文のまま記す。）

満足度	ワークショップ感想(自由意見)
大変満足できた	いろいろな意見があることに気づかされ、大変有意義なワークショップでした。より充実した新しい学校になることを期待しています。
大変満足できた	言い足りないことはありません。建設的な意見ができて良かったと思う。
大変満足できた	子どもの教育の場ではありますが、少子高齢化ではあるので、高齢者や地域住民が受入れ、共生してくれる(共有・利用)施設になればと思います。とても充実した機会をありがとうございました。
大変満足できた	地域に溶け込んだ学校になるよう地域役員、学校管理者が一体となって基盤をつくり学校を盛り上げ、協力推進していきたい。
満足できた	・学校名の変更。・PTA 退会(新しい組織)
満足できた	8月の地域説明会に向けて、本日の意見を踏まえてより具体的にプレゼンテーションしてください。
満足できた	グランウンド南の水路を活用して、人しか通れない道をつくる。その南に公園をつくる。
満足できた	これまでのワークショップでの声をできる崖取り入れていただいて、魅力ある地域の中核としての学校に、と願っています。
満足できた	連田公園からの用地を緑地としている部分を遊具広場として、素案の遊具広場を他のこと(駐車場・ラーニングセンターの拡張など)に有効利用してほしい。・プールの除却　・屋運の多層階化
満足できた	ワークショップで出た意見をくみ上げて、より良い小中一貫校を目指してください。
満足できた	中学校の施設、設備の跡地を有効活用を図りたい。
どちらでもない	ワークショップでの班ごとの意見を発表されるのは意味があるのか疑問に思う。皆様が地域、学校と思い、意見を活発にされていることが素晴らしいと思いました。
どちらでもない	今後の基本計画を随時、WEBで公開してほしい。

(5) ワークショップのニュースレターの発行について

各回のワークショップ意見を取りまとめたニュースレターの発行を行った。(※第1回と第2回は合併号で発行)

次頁から発行したニュースレターを示す。

- 現在、市内の約4割の小中学校が、築60年以上の校舎を保有している状況です。文科省は、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数を70年～80年程度としていますので、施設の更新は待ったなしの課題です。
- 一宮市では、施設の更新を「シン学校プロジェクト」として、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆様から御意見をいただいて、一緒に考えていきます。
- このワークショップでは、「シン学校プロジェクト（第1期）」で選定された「大和南小中学校区」の学校関係者、地域住民、保護者の皆さまからご意見伺います。そのご意見なども参考にしながら「一宮市大和南小学校基本計画」を作り上げていきます。
- ここでは、ワークショップで皆様から出された様々な意見をご紹介します。

●第1回ワークショップ（R6.12.21開催）

《WS風景》

【検討テーマ】

継承したい小学校・中学校の特色と施設コンセプト

- ① 新たな学校に継承したい取り組みについて
- ② どんな学校施設であってほしいか（理念）

【小中一貫校を検討している背景】

<児童生徒の推移>

大和南小学校、大和南中学校の児童生徒の人数は、昭和50年代をピークに減少し続け、2028年には、全ての学年が1クラスになる可能性があります。

【他都市事例の紹介】

小中一貫校の先進事例について紹介されました。事例では、学童保育が複合化されている事例や、多目的に利用ができる学びの空間がある事例などが紹介されました。

【継承したい小学校・中学校の特色と施設コンセプト】

① 新たな学校に継承したい取り組みについての主な意見

<異学年・小中学校の交流>

- 小中で行う行事の継承（ゴミゼロ運動、合同運動会、合同授業 など）
- ふれあい活動（わくペア）読み聞かせ
- 小中別だからこそその良かった面を引き継ぐ

<地域との交流>

- 地域の中心として学校がある
- 地域と小学校が一緒になっている
- 登下校の見守り運動
- ボランティアの受入：読み聞かせ、授業補助、地域清掃のお手伝い

<教育環境>

- 強い部活動。高い学力の維持。
- 受験に集中できる環境

<学校内外での子育て>

- 移動児童館（こっこ）：異年齢交流に良い取組
- 放課後、休日のグラウンド開放

<文化>

- 祭り、盆踊りの復活、地域行事の継承
- なくなったイベントの復活



②どんな学校施設であってほしいか（理念）に関する主な意見

<コミュニケーションのある空間>

- 生徒・児童同士、地域ともコミュニケーションがとれる空間
- 地域の人も使える図書館や会議室（地域交流）

<魅力ある学校>

- 大和南のブランドを大切に、周りからうらやましがられる学校
- 自然光が入る明るい教室・学校

<学習環境>

- 先進的な教育の展開、心の安定を大切にしたい学校

<地域拠点>

- 未就学児～高齢者まで集えるところ
- 地域との交流場所。地域の人も利用できるようにする。

<子供に寄りそう教育>

- 小中各々の発達段階に適した学習、教育活動を実現できる施設

<過ごしやすい・使いやすい施設(機能・空間)>

- 芝生、中庭、広いコミュニケーションスペース
- 綺麗なトイレ、全館空調
- 雨の日も運動できるトレーニングルーム

●第2回ワークショップ（R7.1.18（土）開催）

学びの場や生活の場である「新たな学校施設のあり方」について、意見を出し合いました。

【検討テーマ】

新たな学校施設のあり方について

- ① 学びの場としての教室等のあり方
- ② 生活の場としての学校施設のあり方



①学びの場としての教室等のあり方に関する主な意見

●個別最適な学び（どんな場所でどんな学び）

<教室>

- 個人学習ができるブースで集中して学習
- ベランダを設置し植物の観察（夏はグリーンカーテン）
- できる子とできない子を差別されない教室

<特別教室等>

- パソコンを使って自由に調べものができる部屋
- 先進的な技術に触れられる部屋
- 音楽室で一人で音楽を聴くことができる

<図書室>

- 集中して本を読んだり、調べものや勉強ができる個室。衝立で仕切られた机など

<屋外空間>

- 広いスペースと年齢ごとに遊べる道具、個別の遊びも可能

●協働的な学び（どんな場所で誰とどんな学び）

<教室>

- 地域の方から学ぶことができる授業
- 友達同士で勉強を教え合う
- 柔軟性のある教室で隣のクラスと一緒に学ぶ

<オープン（フリー）スペース>

- 他学年の生徒から勉強を教えてもらう
- 地域や先生と交流する
- 子供や地域の作品を展示。器楽、音楽発表
- 児童生徒の集会。地域の方との話合い

<図書室>

- オンラインを活用した学習（タブレット、Zoomなど）
- 大画面で映画鑑賞

<校庭>

- 異学年で運動。みんなで探検
- 異学年同士で植物を育てる

②生活の場としての学校施設のあり方（交流や児童生徒にとって居心地のよい場所になるには）

<交流>

- 地域の人に開放される休憩スペース
- 芝生空間に座れるような場所があり友達と会話をする
- 廊下にテーブルを設置し、他クラスの友達とも過ごせる空間
- 地域活動でも利用できる体育館、教室
- ランチルームで友達や地域の人と食事

<居心地の良い場所>

（空間）

- 隠れ家のような場所、一人になれる場所
- 小さな部屋で先生と個別に相談できれば
- 広い窓から地域の風景を見れる

（設備）

- 明るくきれいなトイレ、多目的トイレ
- 廊下や壁を木材に。空調設備の完備

- 現在、市内の約4割の小中学校が、築60年以上の校舎を保有している状況です。文科省は、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数を70年～80年程度としていますので、施設の更新は待ったなしの課題です。
- 一宮市では、施設の更新を「シン学校プロジェクト」として、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆様から御意見をいただいて、一緒に考えていきます。
- このワークショップでは、「シン学校プロジェクト（第1期）」で選定された「大和南小中学校区」の学校関係者、地域住民、保護者の皆さまからご意見伺います。そのご意見なども参考にしながら「一宮市大和南小学校基本計画」を作り上げていきます。
- ここでは、ワークショップで皆様から出された様々な意見をご紹介します。

●第3回ワークショップ（令和7年2月22日（土）開催）

近年、特別支援学級や通級学級の児童生徒数は増加し続けています。また、学校に行けなかったり、学校まで行っても教室に入れない児童生徒も増えてきています。そのような現状を踏まえ、「誰もが安心して過ごせる学校にするために」あらたな学校に何が必要かを皆さんと話し合いました。



《WS風景》

【大和南小・中学校の先生から現在の様々な支援の取組をお話していただきました】

【現在の不登校支援の取組】

<相談室・適応教室の設置>

- 適応教室は学校までは来れるが教室には行けない子のための場所（中学校）
- スクールサポートルームの設置を検討（担当の教員が付けられる）（中学校）
- 相談（相談室）→勉強（適応教室）→学級へのステップがある
- 心の相談室という取組があり、相談員とスクールカウンセラーが対応、週5日体制で稼働（中学校）

<通級学級>

- 通級は他の小学校から来てもよいが保護者の同伴・送り迎えが必要
- 通級に通っている子どもの、所属学級・学校での時間割等の配慮が必要
- 医療ケアが必要な子ども（吸引が必要等）の受け入れをしている学校もある

（参考）大和南小学校： 特別支援学級 7人 2学級

大和南中学校： 特別支援学級 7人 2学級 （2024年5月1日現在 一宮市HPより）

テーマ① 誰もが安心して過ごせる学校にするために

「多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設」「安全・安心な学校施設」について、意見を出し合いました。

多様な配慮を要する児童生徒に対応した施設に関する主な意見

<配慮した空間・スペース>

- クールダウンスペース
- 通級の入り口を通常の入り口と分ける
- 個別に指導できる学習支援教室を設ける

<学習支援>

- 学習の補完指導ができるような場所。

<支援体制>

- 通級に通っている子どもの、所属学級・学校での時間割等の配慮が必要。
- 専属の教員が配置されたスクールサポートルームの設置

<保健室>

- シャワーの設置
- 処置、休養、相談、事務のスペースをそれぞれ確保する。

<ジェンダー>

- オールジェンダートイレは必要

<バリアフリー>

- 車いす対応のトイレの設置
- エレベーターの設置

<設備>

- 特別支援、通級学級の設備の充実
- 温水便座のトイレ

安全・安心な学校施設に関する主な意見

<安心して過ごせる空間>

- ひとりで過ごせる空間
- 教室のそばにデンなどの空間があるとよい。
- 階段の高さを小中それぞれの体格に合わせる。
- 自宅から持参した本が読めるスペース
- 各階にバリアフリー等に配慮したトイレを設置する。
- 地域住民の利用も考慮し、セキュリティ対策も必要。
- 駐車場は玄関近くにした方がよい
- 職員室から人の出入りが見えるような工夫があるとよい。

<相談室>

- 各学年に1対1で相談できる場所があるとよい。
- 先生以外に相談できる場所。
- 先生と話すことはハードルがある生徒も相談室は気楽に利用している
- 相談員の設置は必要

<適応教室>

- 相談室や適応教室は靴下で過ごせるようにすると気持ちが落ち着くかも

テーマ② 児童生徒が先生と交流しやすい環境づくり

児童生徒が先生と交流しやすい環境づくりに関する主な意見

<職員室>

- 廊下側をガラス張りで見えやすく。
- 採光を取り入れた明るく広い職員室。
- オープンな職員室でカウンターを設置。入りやすいし、話しもしやすい。
- 子どもが気軽に入れる空間づくり
- 小中学校の職員室は一体とし、相互の交流を図れるようにする。
- オープンすぎると先生も落ち着けないすりガラス程度の配慮はあるとよい
- 先生たちの個人用ロッカー

<相談室>

- 相談室はあまり密室にならないよう、でもプライバシーへの配慮も必要。
- タブレットで児童生徒と先生が繋がれるようにする（相談がしやすい工夫）

<休憩室・交流スペース>

- 小・中の教員同士で交流できる空間
- 先生用のカームダウン室が必要

<教材室>

- 学年・教科ごとに教材が異なるため、小中別々に設ける。
- パーテーションで仕切れるようにし、対応の幅を広げられるようにする。

- 現在、市内の約4割の小中学校が、築60年以上の校舎を保有している状況です。文科省は、鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数を70年～80年程度としていますので、施設の更新は待ったなしの課題です。
- 一宮市では、施設の更新を「シン学校プロジェクト」として、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆様から御意見をいただいて、一緒に考えていきます。
- このワークショップでは、「シン学校プロジェクト（第1期）」で選定された「大和南小中学校区」の学校関係者、地域住民、保護者の皆さまからご意見伺います。そのご意見なども参考にしながら「一宮市大和南小学校基本計画」を作り上げていきます。
- ここでは、ワークショップで皆様から出された様々な意見をご紹介します。

●第4回ワークショップ（令和7年3月29日（土）開催）

第4回ワークショップでは、これからの新たな学校の地域開放について、地域と学校の関わり方や、地域が学校施設をどのような使い方をしたいか、また地域開放することによる課題・対策などを皆さんと話し合いました。

また、大和南小学校の新たな学校整備に向け大切にしたいこと、コンセプトキーワードを出し合いました。



《WS風景》

テーマ① 学校開放について

「地域と連携した学び」についての主な意見

【地域住民が講師】

- 地域の方を講師に学習（ミシンや陶芸など得意なことを）
- お茶、お茶の会を地域の方が講師となって生徒たちが学ぶ会
- 部活動の指導者として地域の方の能力を活用する → システムづくり
- 小中一貫ならではの教育活動を前面に出し、学力を充実させたい
- 障がい児教育 幼いころからふれあう
- 福祉学習の一環としての小学生と高齢者とのふれあい

【システムづくり】

- ボランティアとして授業サポートもできるとよい（学習チューター）
- 学校⇄地域の双方向で依頼ができるようにする
- 地域人材活用システムや、学習・環境整備ボランティアなどのコーディネーターが必要

【大和南らしい地域開放】

- 高齢者が参加できる会
- 福祉学習の一環としての小学生と高齢者とのふれあい
- 世代を超えて話せる場所
- 地域が教える昔あそび

テーマ① 学校開放について

「地域に開放する学校施設」についての主な意見

【運動場・屋内運動場】

- 運動場・屋内運動場を開放する（部活動廃止による運動場所、遊び場の確保）
- 下校後の外遊びが活発にできるように施設を開放できるとよい
- 特に中学生は部活がなくなるので、活動できる場所が欲しい

【図書室】

- 図書室を地域に開放して子どもと地域の交流を図る
- 図書室を一宮市立図書館分館として地域の人も利用可能に（移動図書館程度でも）

【コミュニティ】

- 児童クラブ施設、多目的教室を開放して交流、利用しやすいようにする
- 現在の利用施設は継続利用できるように
- 施設だけでなく、道具や楽器の貸し出しも

【公共的役割】

- 児童・生徒や地域住民が利用できる小ホールがあるとよい
- 現在の公民館のような機能があるとよい

【相談室・適応教室】

- 各学年に1対1で相談できる場所。
- 先生以外に相談できる場所。

地域開放に向けた課題と対策に関する主な意見

【セキュリティ対策】

- 常駐する方がいるとセキュリティ面で安心ではないか
- 地域開放に向けてスマートキーシステムを完備し、施設管理をしっかり行う
- ハードルがある生徒も相談室を気楽に利用できる
- 一般の入口を見通しの良い場所にする
- セキュリティの問題（鍵・電気）※現状はスマートロックで管理

【ゾーニング】

- 地域と学校の入口を別にする必要がある

【人員の負担】

- 地域の方が利用するときの鍵や手続きを誰がやるか、学校教員の負担にならないか

【運営】

- 事故や破損があった場合の責任の在り方
- セキュリティのスマホ利用は高齢者には難しい

【駐車場】

- 駐車場が足りない、校庭で遊んでいる子どもがいるので危ない

テーマ② 新たな学校整備に向けた方針

新たな学校整備にむけ「大切に思う」こと

【魅力ある 選ばれる学校】

- 魅力ある成長する学校を目指す
- 住みたくなる・通いたくなる魅力的な学校
- 行きたくなるような魅力的な学校にする。
- 個性豊かな個々の持ち味を伸ばせる文化的、体育的な活動の充実
- 子どもの自主性を生かした探求心あふれる学びの場構築
- お互いに思いやりが深まる学校づくり
- みんながワクワクする。
- 安心・安全な拠点

【誇り】

- 大和南ブランドを高める。⇒個別最適な学びや治安の良さなど、大和南地域に誇りを持てるような地域にする。
- 誇りに思える学校
- 大和南らしい地域と交わり・共生

【特色のある教育・施設】

- 大和南でしかできない特色のあるカリキュラムを持った学校
- 特色あるカリキュラム・先進的な教育（例：ICT、陸上など）
- 自由でゆとりのある空間⇒自由な発想を生む。

第5回ワークショップ（令和7年5月17日（土）開催）

第5回ワークショップでは、これまでのワークショップで参加者のみなさんからいただきました意見を踏まえ、「整備コンセプト・基本方針」「主な必要機能・諸室の基本的な考え方（案）」「配置ゾーニング図（素案）」について説明されました。ワークショップでは、これらの案をもとに、新たな大和南小学校のあり方について、具体的な意見交換が行われました。



ワークショップの風景

■基本計画策定に向けたワークショップの経過と基本計画（目次構成）

- ・ワークショップで出された意見を踏まえて基本計画（素案）を作成します。この素案をもとに、今後は、**行政の視点と教育の視点**を踏まえ、**基本計画（案）**を取りまとめます。
- ・基本計画（案）は、**地域説明会等**を開催し、みなさまにご説明をする予定です。

■ワークショップの経過

第1回：令和6年12月21日（土）

継承したい小学校・中学校の特色と施設コンセプト

- ① 新たな学校に継承したい取り組みについて
- ② どんな学校施設であってほしいか（理念）

第2回：令和7年1月18日（土）

新たな学校施設について（1）

- ① 教育の場としての教室等のあり方
- ② 生活の場としての学校施設のあり方

第3回：令和7年2月22日（土）

新たな学校施設について（2）

- ① 誰もが安心して過ごせる学校を目指して
- ② 児童生徒が先生と交流しやすい環境づくり

第4回：令和7年3月29日（土）

地域における学校施設のあり方について

- ① 学校の地域開放について
- ② 新たな学校整備に向けた方針

第5回：令和7年5月17日（土）

ワークショップを踏まえた基本計画素案

- ① 基本コンセプト・基本方針（案）
- ② 主な必要機能・諸室の基本的な考え方（案）
- ③ 配置ゾーニング図（案）

■大和南小学校基本計画 目次構成（案）

第1章 学校施設を取り巻く状況

- (1) 国・県の動向
- (2) 市の教育の状況

第2章 大和南地域の状況

- (1) 大和南小学校の周辺状況
- (2) 児童生徒の状況
- (3) 小中学校における学校施設の現況

第3章 施設整備のコンセプト

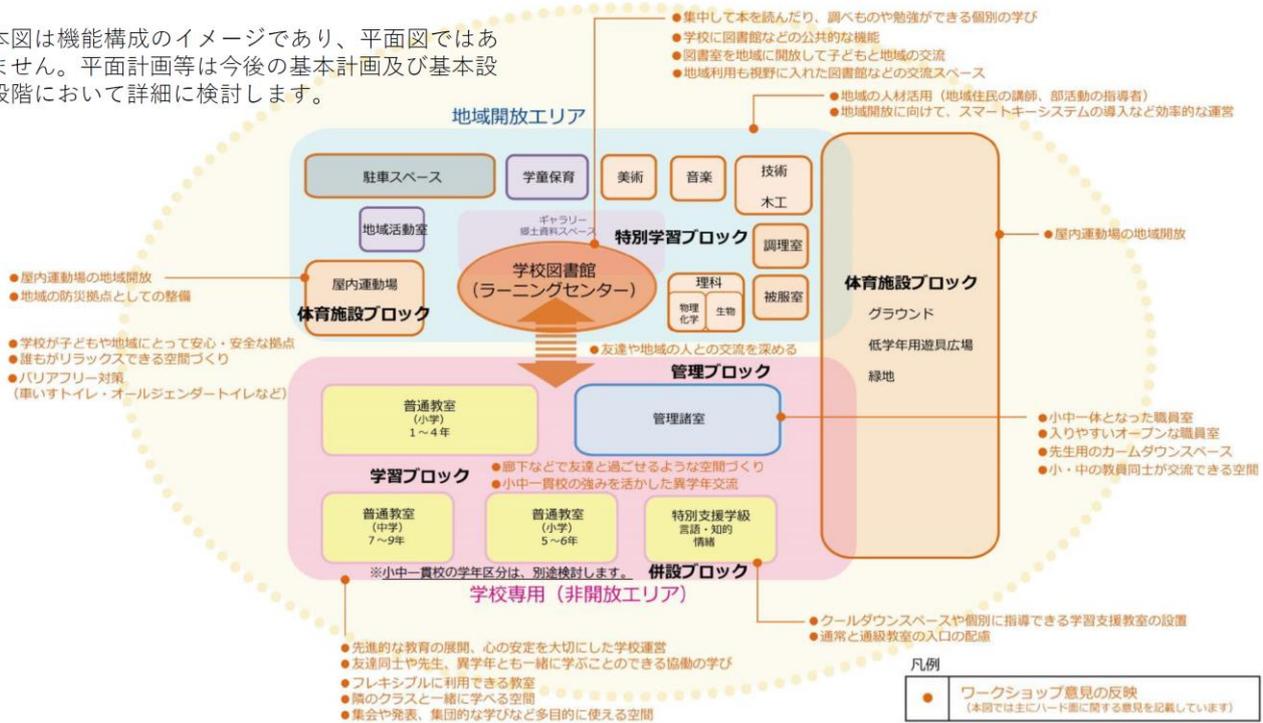
- (1) 市民意見の整理
- (2) 施設整備のコンセプト
- (3) 基本方針
- (4) 公共施設の複合化の方針

第4章 基本計画

- (1) 前提条件及び課題の整理
- (2) 主な必要機能・諸室の基本的な考え方
- (3) 施設整備計画の検討
（ブロックプラン、平面計画等）
- (4) 構造計画の検討
- (5) 設備計画の検討
- (6) 概算整備費の算定
- (7) 概略スケジュール
- (8) 管理運営案の作成

■大和南小中一貫校の機能構成イメージ

※本図は機能構成のイメージであり、平面図ではありません。平面計画等は今後の基本計画及び基本設計段階において詳細に検討します。



■ワークショップでの主な意見

テーマ① 整備コンセプト・基本方針／主な必要機能・諸室の基本的な考え方（案）

『整備コンセプト・基本方針』についての主な意見

- 子ども目線での施設づくりを行ってほしい
- 地域が学校を見守る関係性を続けてほしい
- 小中一貫校とするメリットを生かした学校づくりを行ってほしい
- 教育課程特例制度を活かした学校づくり
- 小規模特認校を活かして学区外から人を呼び、個に応じた学習を行ってほしい
- 多目的に使える空間（ランチ・コミュニケーション、ミーティング）
- 『選ばれる学校』というキーワードを使ってもらいたい

『主な必要機能・諸室の基本的な考え方（案）』に関する主な意見

【諸室の構成について】

- ラーニングセンターを活かした地域交流を行いたい
- 機能は学校教育を中心とすべき
- 民生委員の方が集う場所もあった方がよい

【諸室の環境等】

- バリアフリーな施設が良い。
- ネット環境は学校全体として整えてほしい。
- ランチルームは床が特徴的で多目的に使いづらい

テーマ② 配置ゾーニング図（素案）について

『配置ゾーニング図（素案）』に関する主な意見

【小学校敷地に関すること】

- 連田公園の機能も確保してほしい
- プールをなくし、民間プールの利用を検討
- 授業時間外も小中学生が外で過ごせる場を確保してほしい

【図書館（ラーニングセンター）】

- ゆとりある図書館にしてほしい

【地域開放】

- 木材を使った優しい印象の空間にほしい。
- 屋内運動場を一般の避難施設として利用

(6)ワークショップ参加者

<ご参加いただいた皆さま(肩書)>

大和町連区町会長代表者

豊島台町内会 会長

戸塚ニュータウン町内会 副町会長

大和南小学校 学校運営協議会 会長

大和南小学校 学校運営協議会委員(2名)

大和南小学校 PTA 役員 会長

大和南小学校 PTA 役員 副会長

大和南小学校 PTA 役員 書記

大和南小学校 PTA 役員

大和南中学校 学校運営協議会 会長

大和南中学校 学校運営協議会 委員(2名)

大和南中学校 PTA 役員 会長

大和南中学校 PTA 役員 副会長

大和南中学校 PTA 役員(1名)

研修南保育園未就学児保護者(2名)

大和南中学校 校長

大和南小学校 校長

大和南小学校ワークショップにご参加いただきました皆さま、ご多忙の中、全5回にわたりご参加いただきましたこと、誠にありがとうございました。この度、皆さまから頂きました貴重なご意見を基に基本計画を取りまとめることができました。今後、基本設計、実施設計と進んでまいりますので、今後とも大和南小学校のプロジェクトを温かくお見守りいただけますようよろしくお願い申し上げます。

一宮市教育委員会

シン学校プロジェクト一宮市立大和南小学校基本計画

2026(令和8)年2月

発行 一宮市

編集 教育部 総務課

〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号

電話：0586-85-7013(ダイヤルイン)

メール：k-somu@city.ichinomiya.lg.jp